

平成23年度

県政世論調査

結果報告書

〈概要版〉

平成24年3月

福島県

目 次

I 調査の概要

1 調査の目的	1
2 調査実施概要	1
3 調査項目	1
4 回答者の構成	2

II 調査結果の解説

1 震災時及び現在における情報収集について	5
(1) 震災直後の情報の入手手段	5
(2) 震災直後に必要な情報	6
(3) 現在の震災情報の入手手段	7
(4) 現在必要な震災情報	8
2 男女共同参画の視点からの災害対応について	11
(1) 防災計画策定の際のメンバー構成	11
(2) 避難所で配慮が必要な設備	12
(3) 「性別の違い」に配慮が必要な対応	13
(4) 同性に相談したい避難所生活での要望等	14
(5) 震災や豪雨災害後、自分や家族に生じた問題	15
3 心の健康について	16
(1) 心の健康への関心の有無	16
(2) 精神的な疲労の認識	17
(3) 心の負担になっていること	18
(4) 心の健康についての相談先	20
(5) 利用したことのある相談機関	21
(6) 相談結果の状況	22
(7) 相談機関への要望	23
4 震災後の商業環境について	24
(1) 現在の「買い物環境」	24
(2) 買い物で不便を感じる事	25

(3) 買い物の不便さを改善するために必要なこと	26
(4) 商店街に期待する機能	28
5 芸術文化・スポーツ活動について	30
(1) 震災後の芸術文化・スポーツの活動状況	30
(2) 活動時間が増加、不変または新たに始めた理由	31
(3) 活動時間が減少または活動しない理由	32
(4) 芸術文化・スポーツ活動振興のために取り組むべきこと	33
6 震災後の県内の安全・安心（治安）について	34
(1) 震災後の治安状況	34
(2) 治安状況が良くなったと思う理由	35
(3) 治安状況が悪くなったと思う理由	36
(4) 犯罪の発生状況や防止方法等の情報の提供手段	37
(5) 犯罪に関して知りたい情報	38
(6) 最も不安に感じる犯罪	39
(7) 警察に強化してほしい活動	41
7 安全で安心な県づくりについて	42
(1) 安全・安心の現状	42

Ⅲ 調査票様式

Ⅳ 過去に実施した県政世論調査項目一覧

● 本報告書利用にあたっての注意点

- 1 本文及び図表中の回答者の割合は百分比（％）で表し、小数点以下第2位を四捨五入してある。
したがって、四捨五入の結果、個々の比率の合計が100%にならないことがある。また、複数回答の質問では、比率の合計は100%を超えることがある。
- 2 図表中の「n」は回答者総数（該当者への質問の場合は該当者数）のことで、100%が何人に相当するかを示す、比率算出の基数である。

I 調査の概要

1 調査の目的

県政の課題等について県民の意識やニーズを調査し、具体的な政策形成等の基礎的な資料とする。

2 調査実施概要

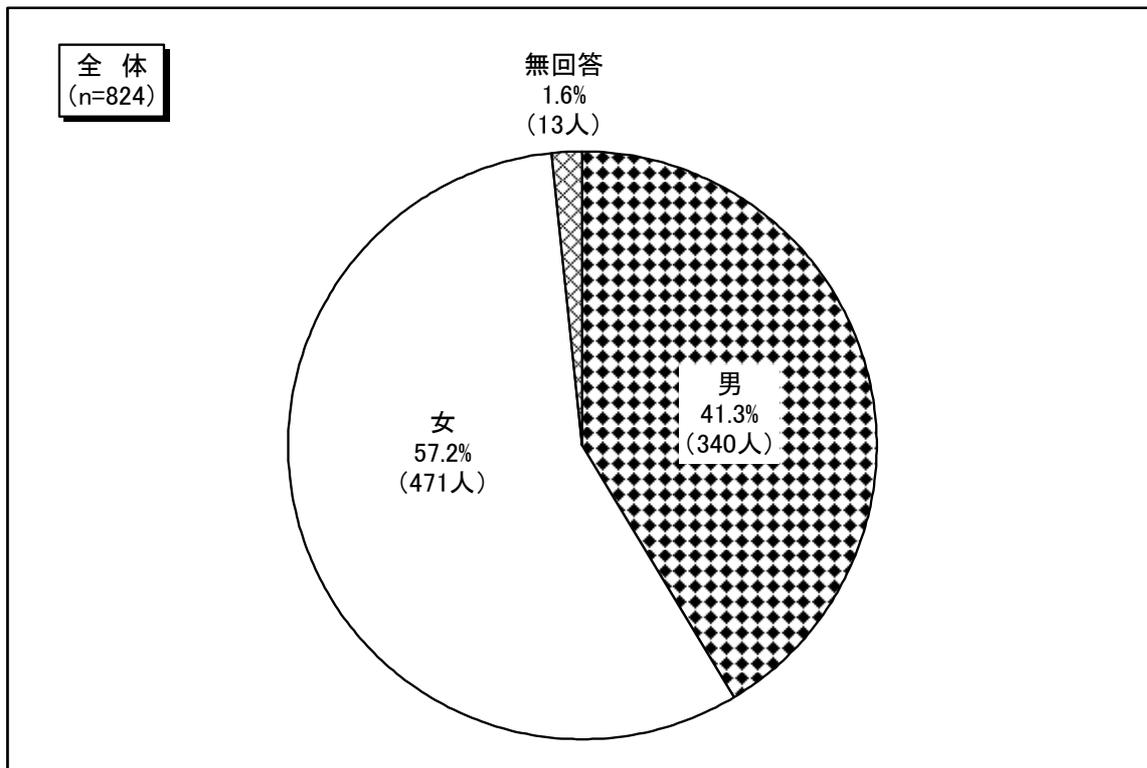
- | | |
|----------|---|
| (1) 調査地域 | 福島県全域（28市町村を抽出） |
| (2) 調査対象 | 満15歳以上の男女個人 |
| (3) 標本数 | 1,300（人） |
| (4) 抽出方法 | 層化二段無作為抽出
第1次抽出：「県北」「県中」「県南」「会津」「南会津」「相双」「いわき」の県内7地域をそれぞれ「総人口10万人以上の市」「総人口10万人未満の市」「郡部（町村）」の3グループに分け、各グループを1つの層とした。
各層の市町村別人口累積表により、等間隔に調査地点（市町村及び町丁・大字）を設定した。
第2次抽出：第1次抽出で得られた調査地点の住民基本台帳から、条件にあてはまる調査対象者個人を系統抽出した。 |
| (5) 調査方法 | 郵送調査（自記式のアンケート） |
| (6) 調査期間 | 平成23年11月21日～12月5日 |
| (7) 回収結果 | 有効回収数824（回収率63.4%） |

3 調査項目

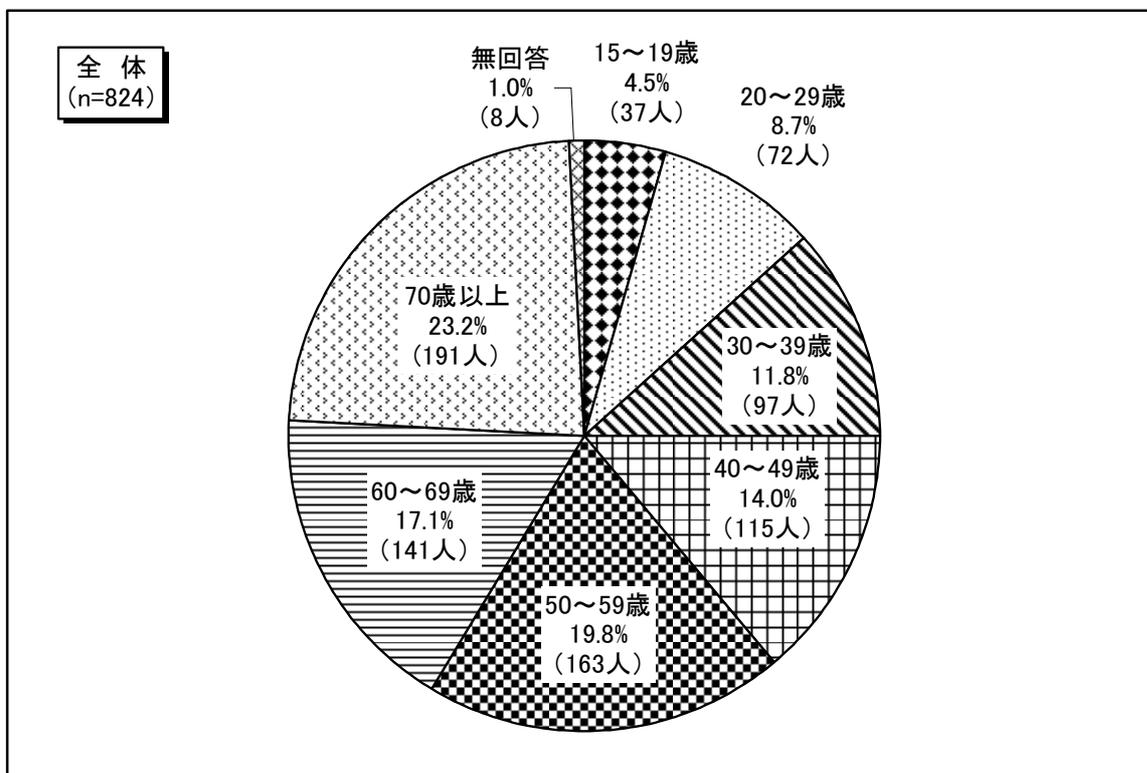
- (1) 『震災時及び現在における情報収集』について
- (2) 『男女共同参画の視点からの災害対応』について
- (3) 『心の健康』について
- (4) 『震災後の商業環境』について
- (5) 『芸術文化・スポーツ活動』について
- (6) 『震災後の県内の安全・安心（治安）』について
- (7) 『安全で安心な県づくり』について

4 回答者の構成

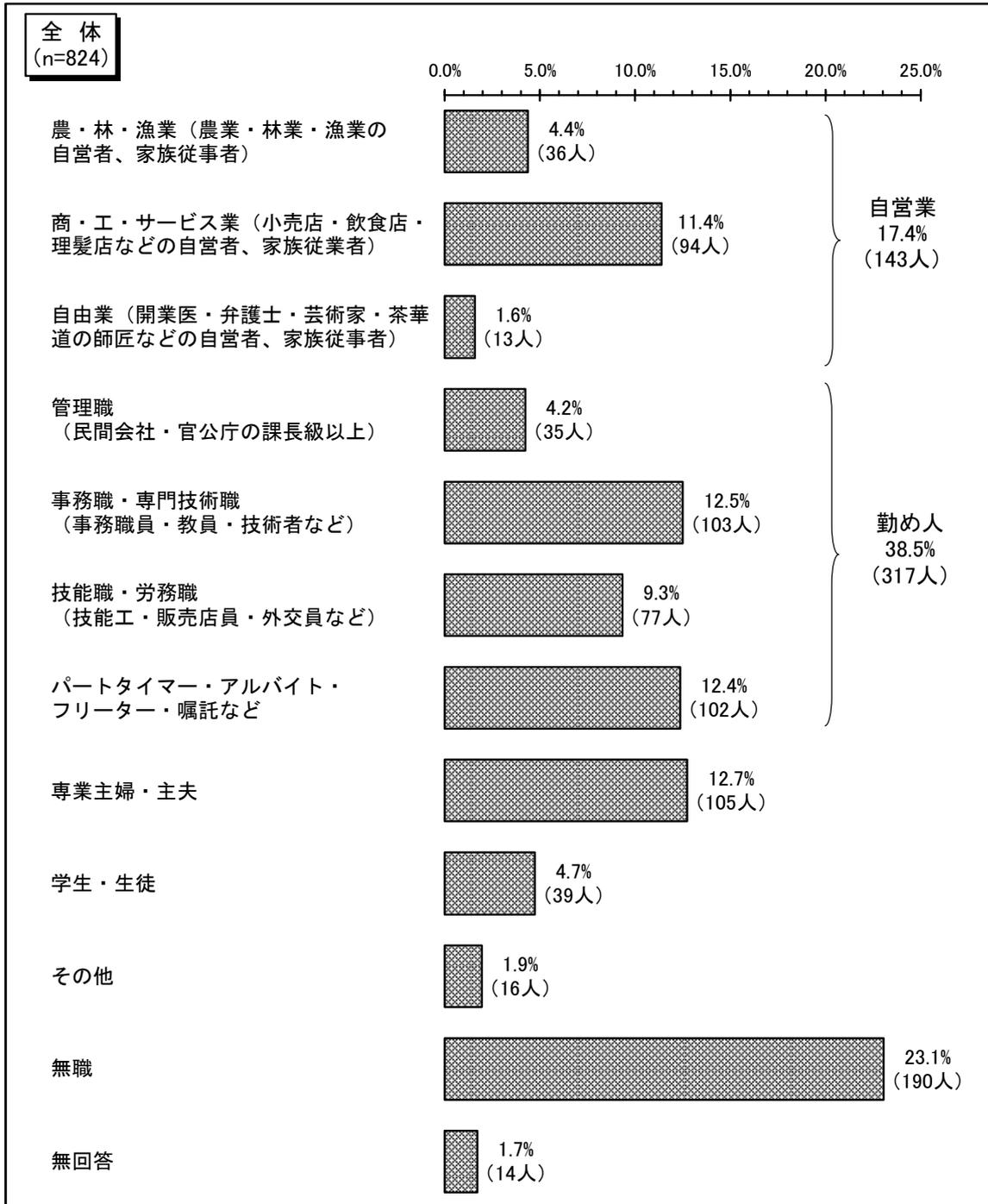
(1) 性別



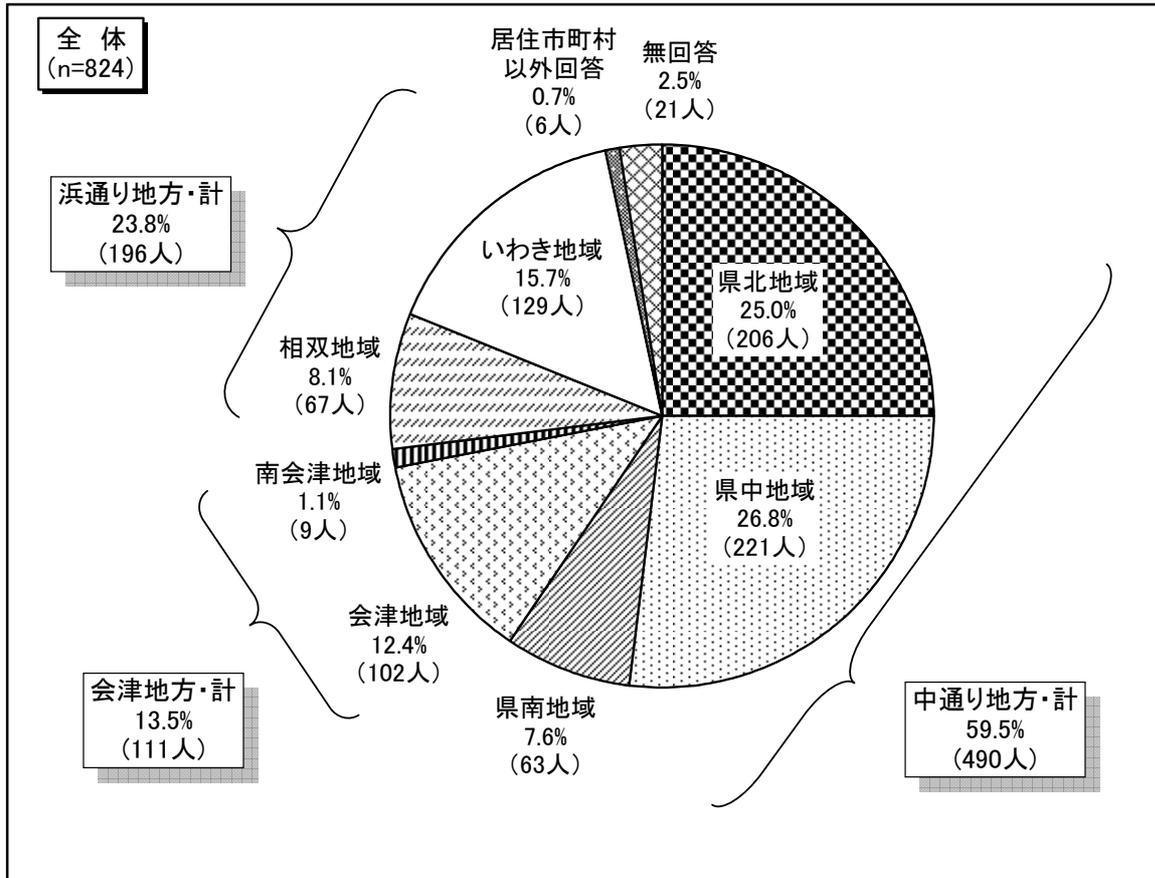
(2) 年齢



(3) 職業



(4) 居住地域



市町村別回答者数

		市町村名	回答者数 (人)	構成比 (%)
中通り地方	県北地域	福島市	119	14.4
		二本松市	25	3.0
		伊達市	26	3.2
		本宮市	15	1.8
		桑折町	12	1.5
		川俣町	9	1.1
		郡山市	123	14.9
	県中地域	須賀川市	36	4.4
		田村市	20	2.4
		鏡石町	14	1.7
		石川町	16	1.9
		平田村	12	1.5
	県南地域	白河市	25	3.0
		泉崎村	15	1.8
矢吹町		13	1.6	
棚倉町		10	1.2	

		市町村名	回答者数 (人)	構成比 (%)
会津地方	会津地域	会津若松市	43	5.2
		喜多方市	20	2.4
		会津坂下町	15	1.8
		金山町	14	1.7
		会津美里町	10	1.2
		A 下郷町	9	1.1
	浜通り地方	相双地域	相馬市	17
南相馬市			24	2.9
楢葉町			8	1.0
富岡町			13	1.6
川内村			5	0.6
B いわき市		129	15.7	
居住市町村以外回答		6	0.7	
居住市町村別無回答	21	2.5		
全体		824	100.0	

A 南会津地域

B いわき地域

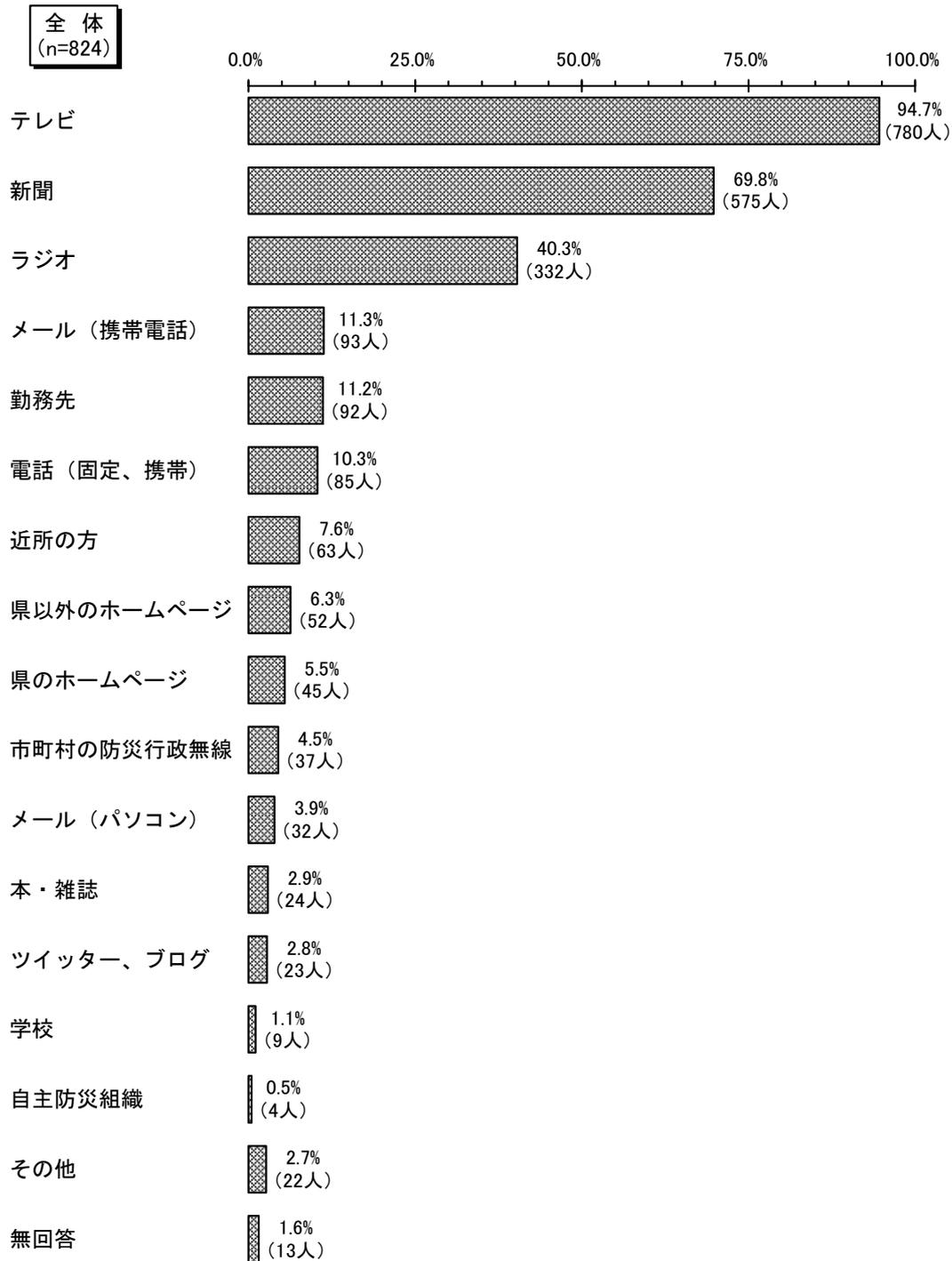
※居住市町村は平成23年11月1日現在の住民基本台帳による

Ⅱ 調査結果の解説

1 震災時及び現在における情報収集について

(1) 震災直後の情報の入手手段

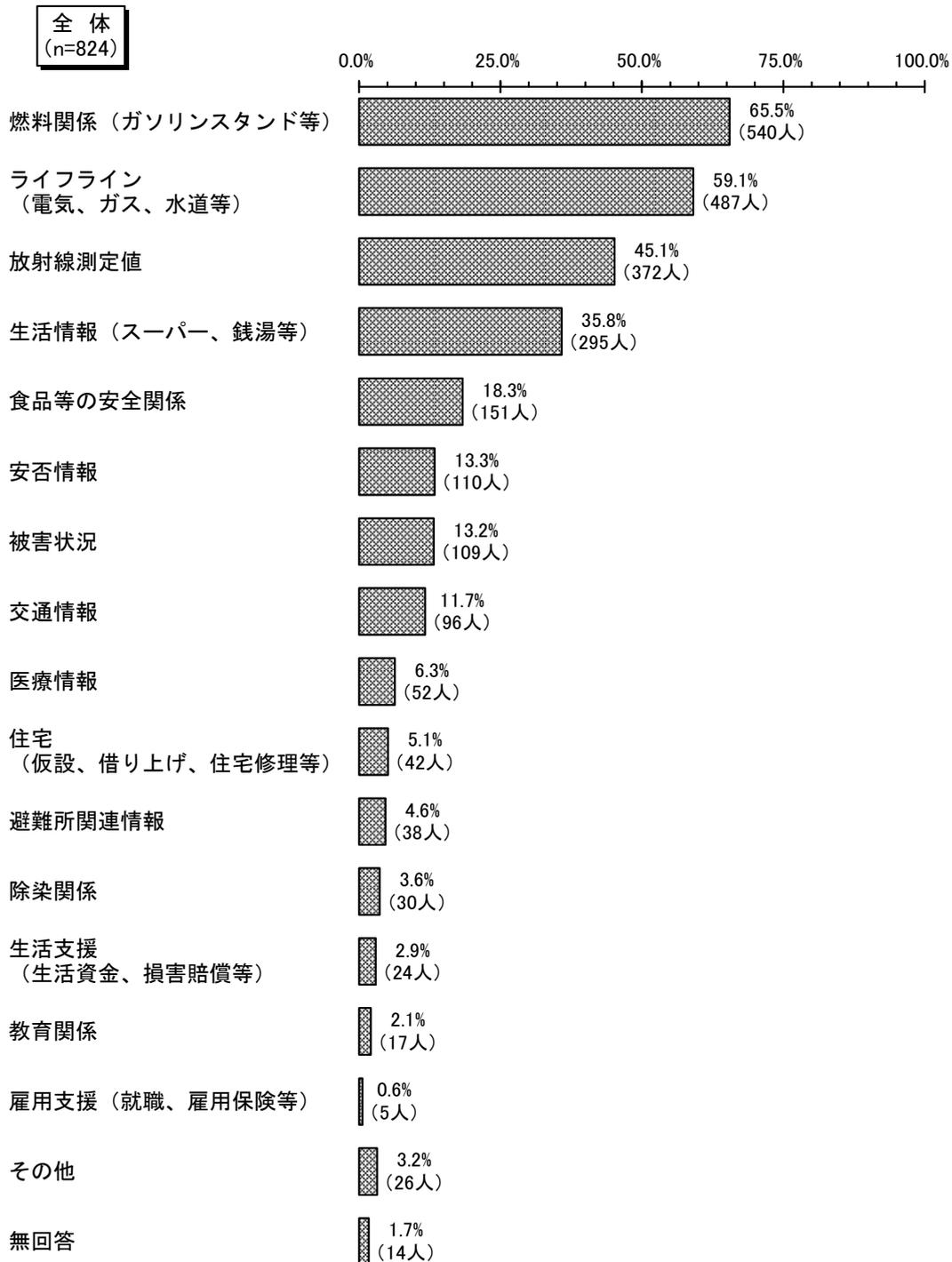
問1 東日本大震災直後から1カ月程度、どのような手段で情報を入手しましたか。
多く活用したもの3つまで○をつけてください。



東日本大震災直後の情報の入手手段は「テレビ」(94.7%)が最も多く、9割を超えている。以下、新聞(69.8%)、ラジオ(40.3%)と続いている。

(2) 震災直後に必要な情報

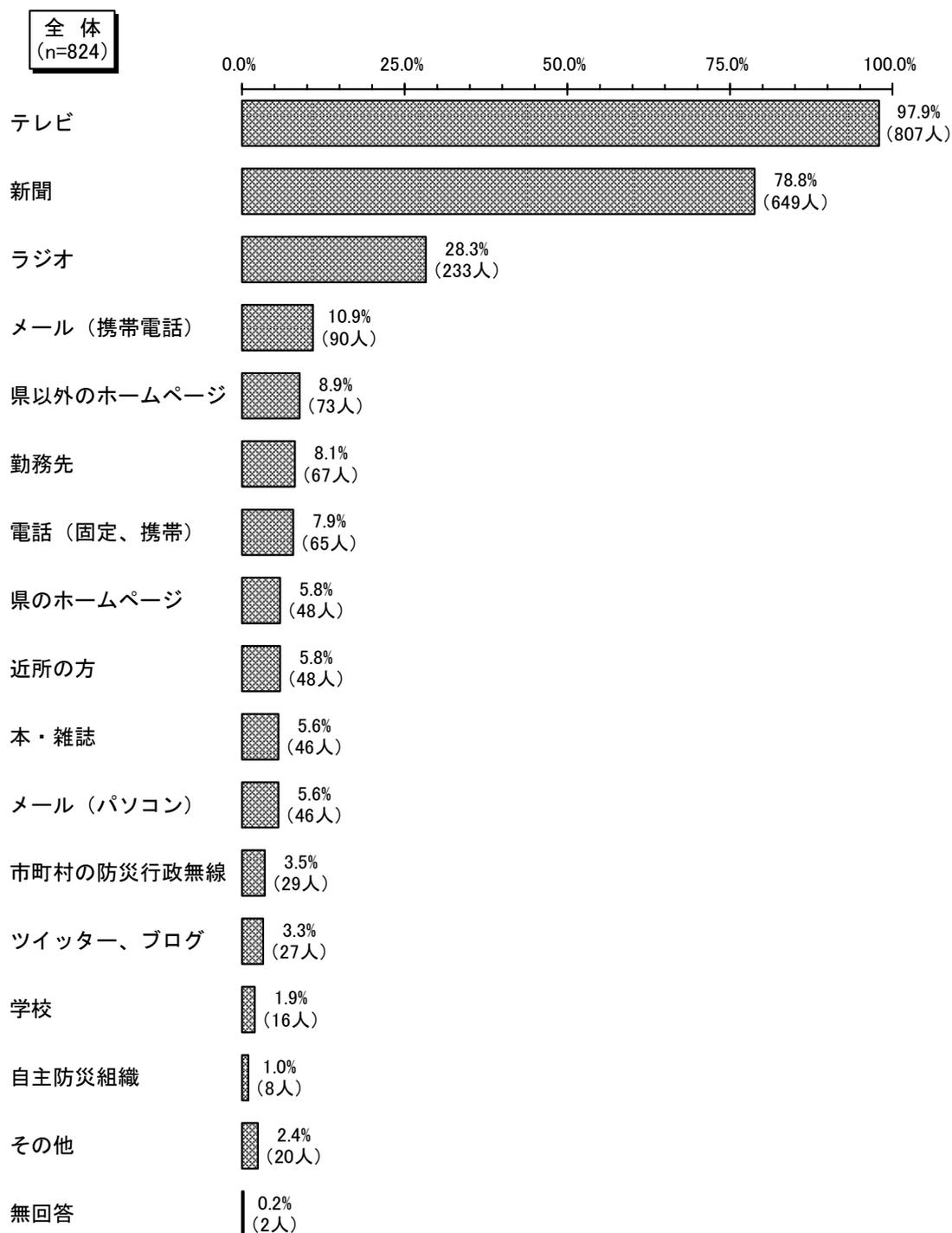
問2 東日本大震災直後から1カ月程度、特にどのような情報が必要でしたか。
 当てはまるもの3つまで○をつけてください。



東日本大震災直後に必要な情報は「燃料関係 (ガソリンスタンド等)」 (65.5%) が最も多く、6割強となっている。以下、「ライフライン (電気、ガス、水道等)」 (59.1%) が6割弱、「放射線測定値」 (45.1%) が4割台、「生活情報 (スーパー、銭湯等)」 (35.8%) が3割台で続いている。

(3) 現在の震災情報の入手手段

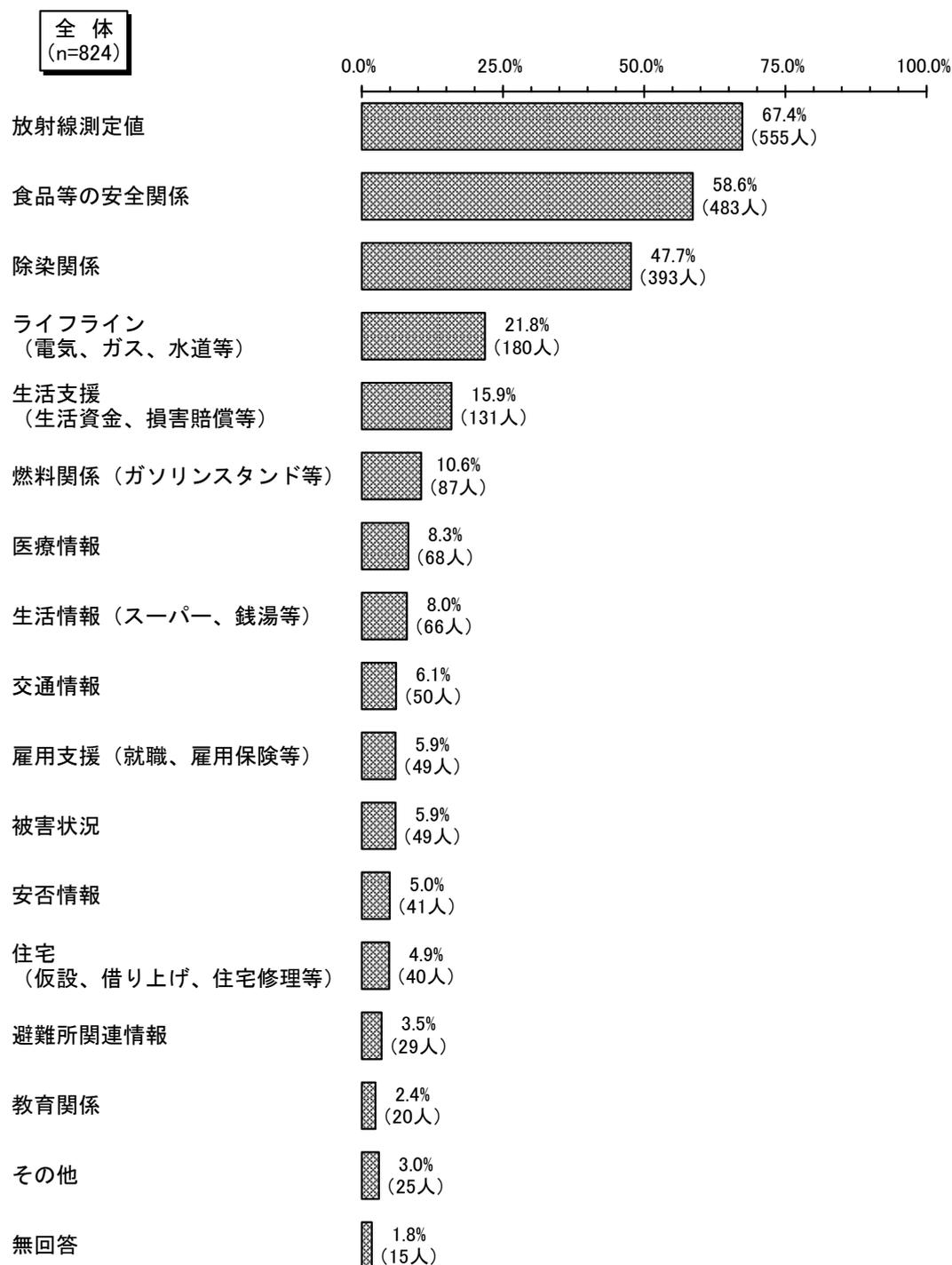
問3 現在の震災情報は、どのような手段で入手していますか。
多く活用しているもの3つまで○をつけてください。



現在の震災情報の入手手段は「テレビ」(97.9%)が最も多く、ほとんどの人がこれを回答している。次いで、新聞(78.8%)が8割弱で続き、割合はかなり低くなるが、ラジオ(28.3%)が3割弱となっている。

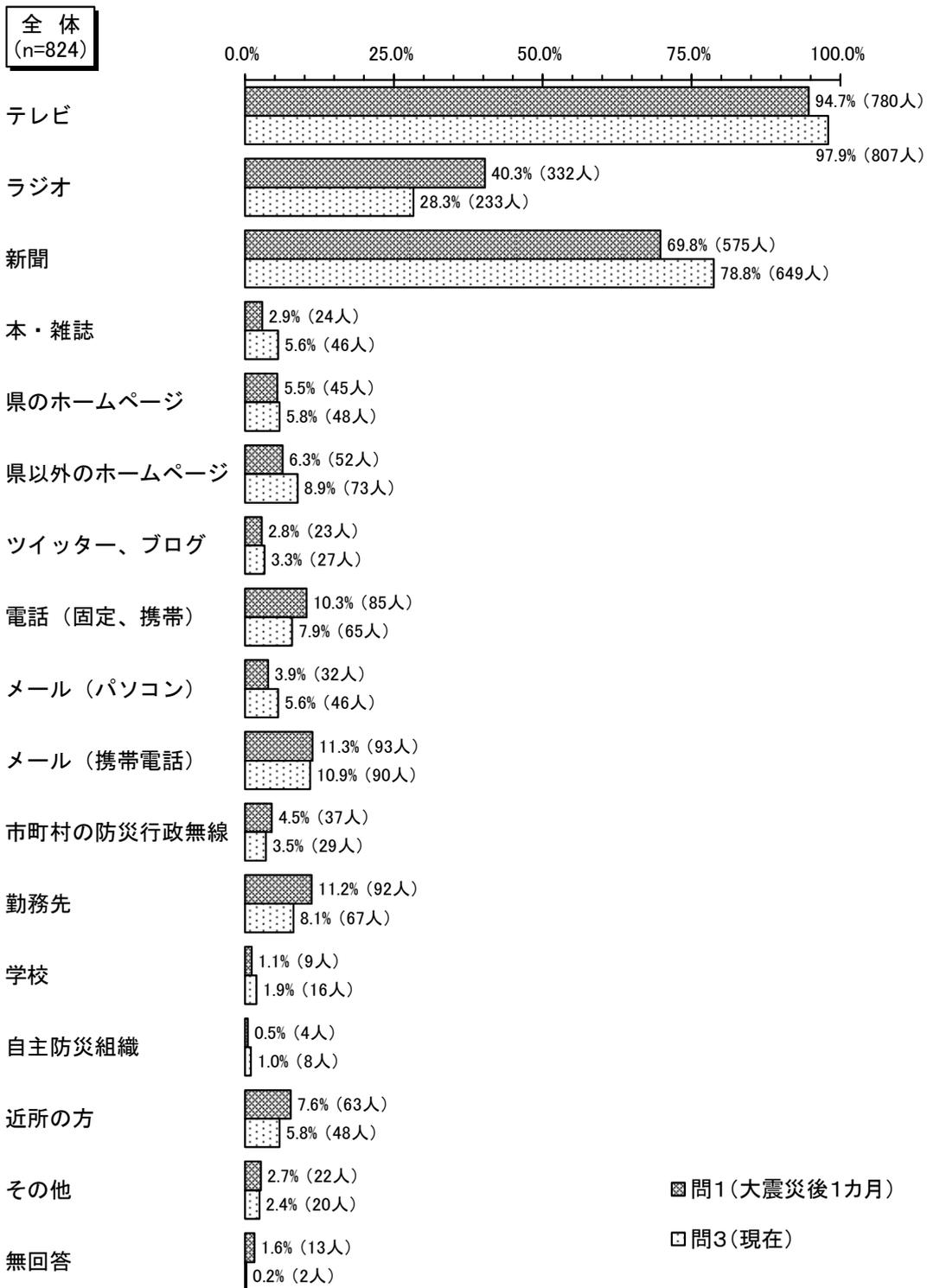
(4) 現在必要な震災情報

問4 現在の震災情報では、特にどのような情報が必要ですか。
 あてはまるもの3つまで○をつけてください。



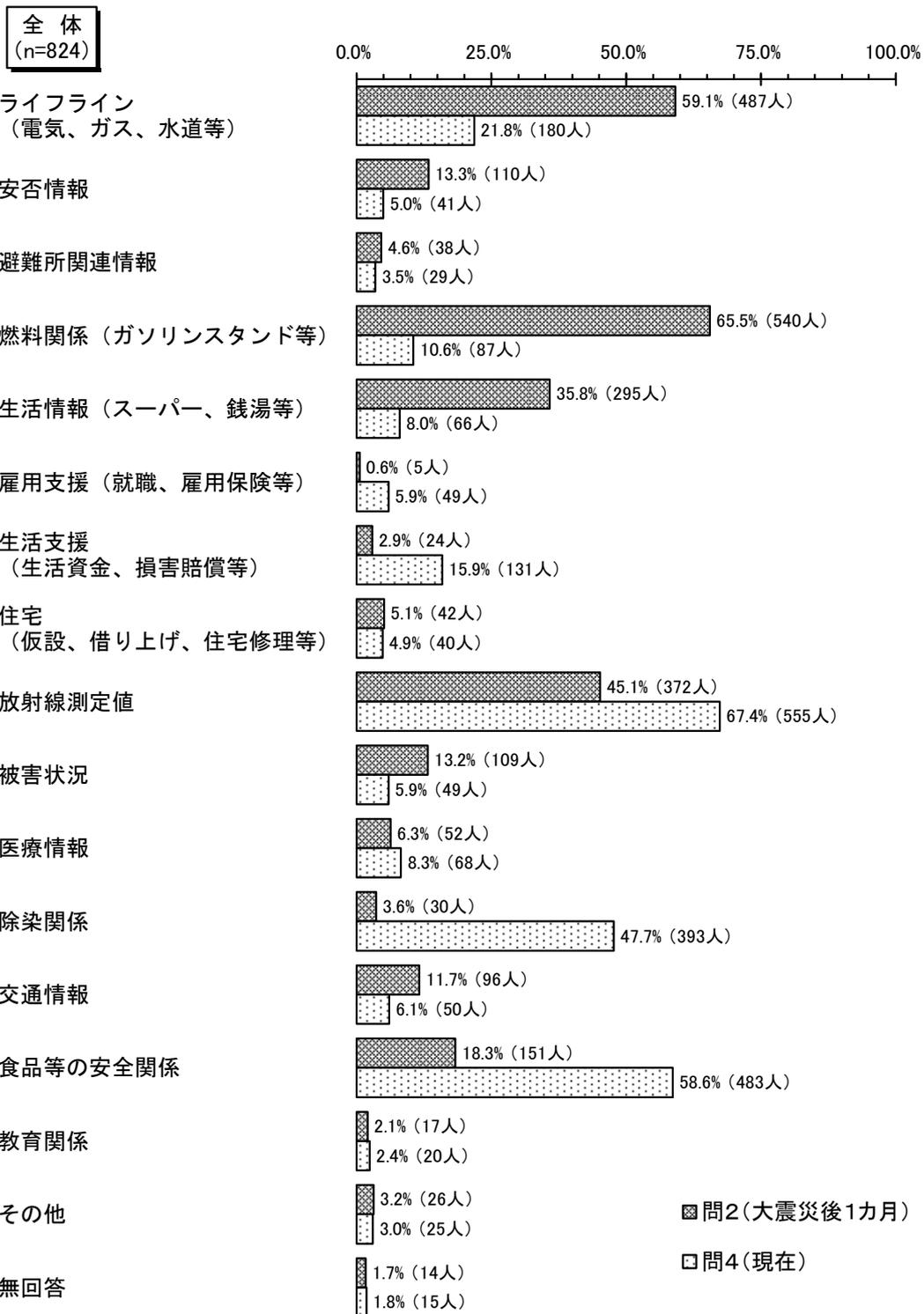
現在必要な震災情報は「放射線測定値」(67.4%)が最も多く、7割弱となっている。以下、「食品等の安全関係」(58.6%)が6割弱、「除染関係」(47.7%)が5割弱、「ライフライン(電気、ガス、水道等)」(21.8%)が2割強で続いている。

【参考 情報の入手手段の東日本大震災直後と現在の比較】



東日本大震災直後と比べると現在は、「新聞」の割合が上昇し、「ラジオ」の割合が低下している。

【参考 必要な情報の東日本大震災直後と現在の比較】



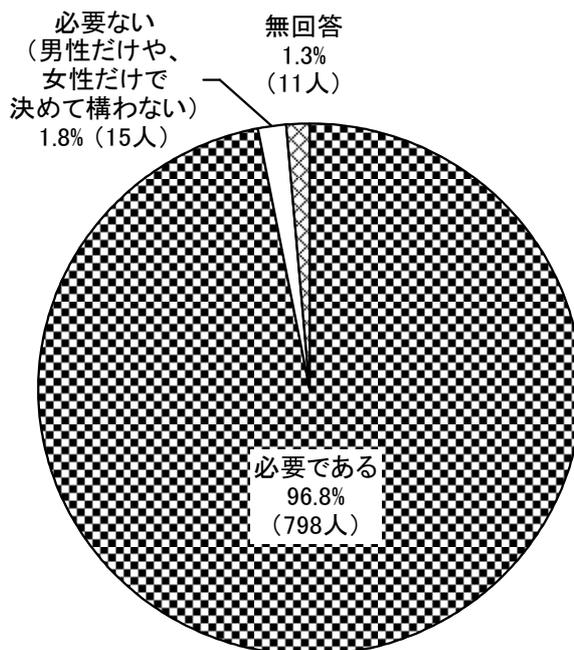
東日本大震災直後と比べると現在は、「放射線測定値」、「除染関係」、「食品等の安全関係」の割合が大きく上昇し、「ライフライン (電気、ガス、水道等)」、「燃料関係 (ガソリンスタンド等)」、「生活情報 (スーパー、銭湯等)」の割合が大きく低下している。

2 男女共同参画の視点からの災害対応について

(1) 防災計画策定の際のメンバー構成

問5 あなたの地域で、防災に関する計画（防災や被害を小さくするための計画、避難する時の計画など）を立てたり、決めごとをする場合、男性も女性も同じようにメンバーとして参加する必要があると思いますか。
あてはまるもの1つに○をつけてください。

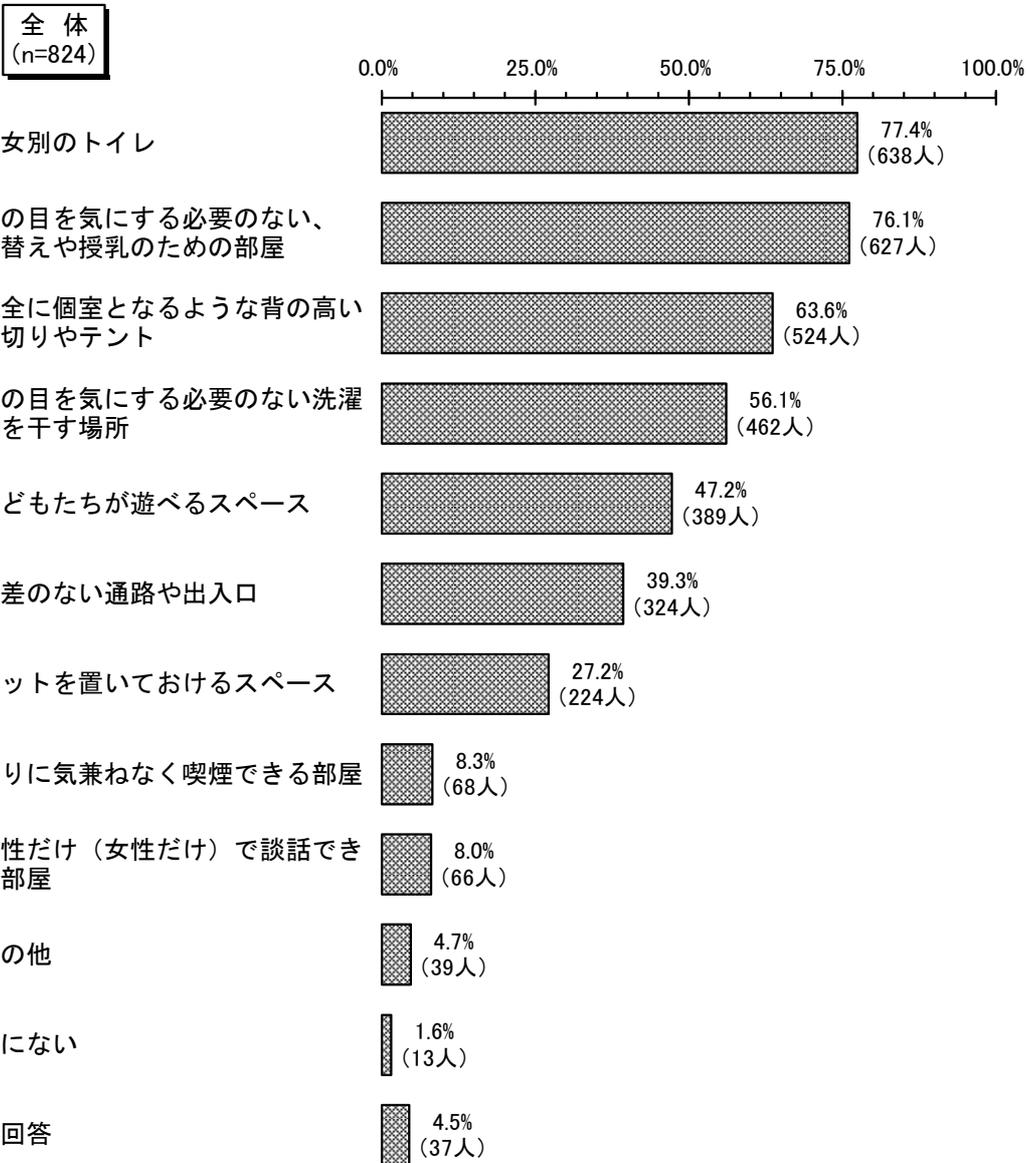
全体
(n=824)



防災計画を立てたり、決めごとをする場合のメンバーは、男性も女性も「必要である」(96.8%)と考える人が多くなっている。「必要ない(男性だけや、女性だけで決めてかまわない)」(1.8%)と考える人はごくわずかである。

(2) 避難所で配慮が必要な設備

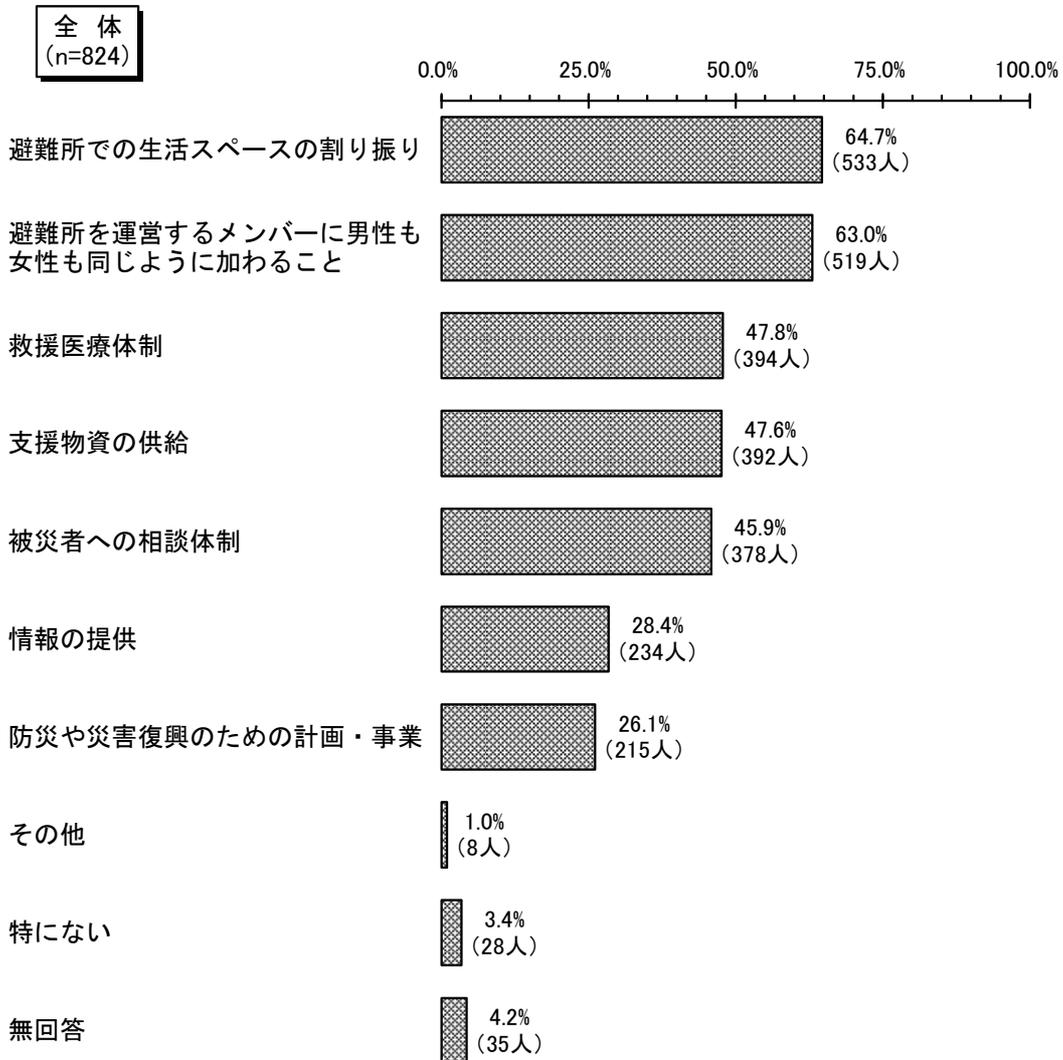
問6 避難所で配慮して欲しい設備はどのようなものですか。
あてはまるものにいくつでも○をつけてください。



避難所で配慮して欲しい設備は、「男女別のトイレ」（77.4%）が最も多く、8割弱となっている。次いで、ほとんど差がなく「人の目を気にする必要のない、着替えや授乳のための部屋」（76.1%）となっている。以下、「完全に個室となるような背の高い仕切りやテント」（63.6%）、「人の目を気にする必要のない洗濯物を干す場所」（56.1%）、「子どもたちが遊べるスペース」（47.2%）、「段差のない通路や出入口」（39.3%）、「ペットを置いておけるスペース」（27.2%）が続いている。

(3) 「性別の違い」に配慮が必要な対応

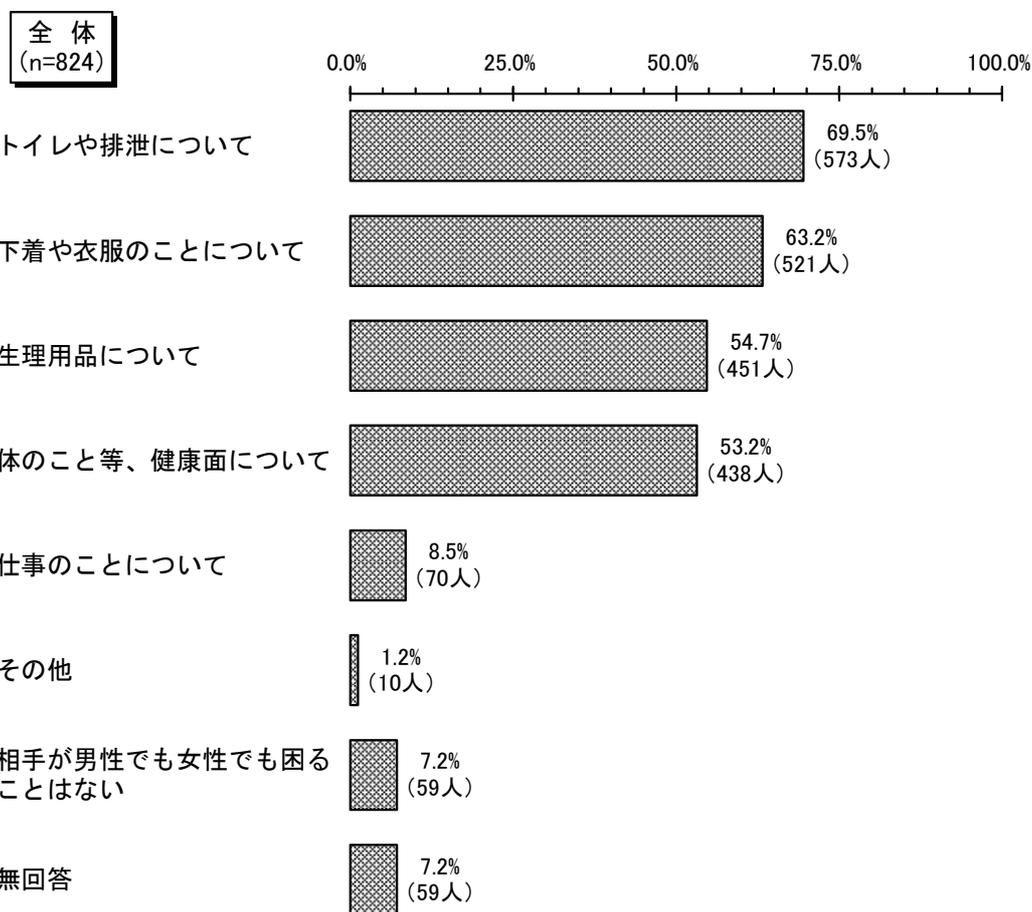
問7 次のうち災害時に「性別の違い」に気を配った対応が必要と思うものはどれですか。
あてはまるものにいくつでも○をつけてください。



「性別の違い」に気を配った対応が必要なことは、「避難所での生活スペースの割り振り」(64.7%)が最も多く、ほとんど差がなく「避難所を運営するメンバーに男性も女性も同じように加わること」(63.0%)が続いている。以下、「救援医療体制」(47.8%)、「支援物資の供給」(47.6%)、「被災者への相談体制」(45.9%)が4割台、「情報の提供」(28.4%)、「防災や災害復興のための計画・事業」(26.1%)が2割台となっている。

(4) 同性に相談したい避難所生活での要望等

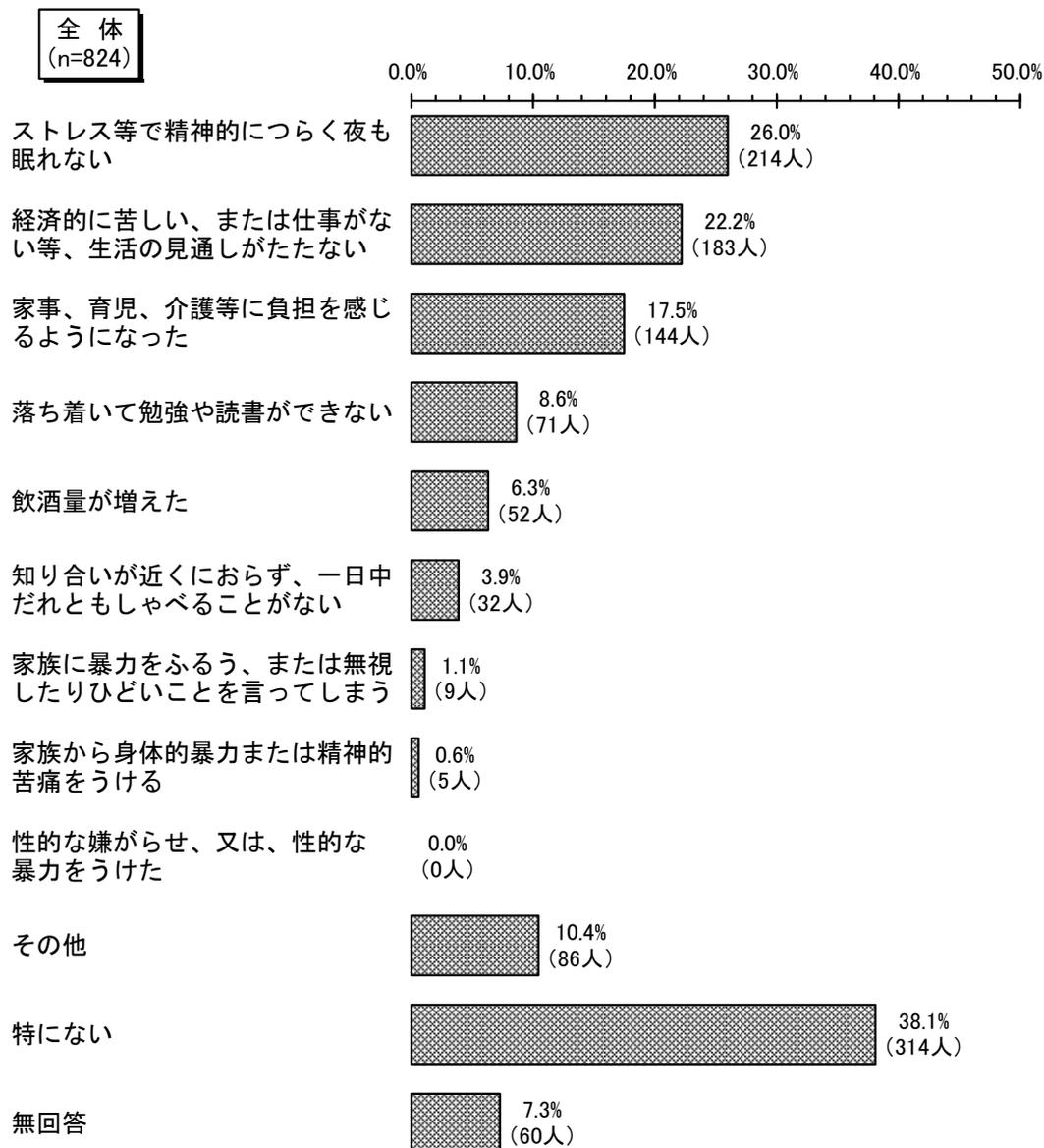
問8 避難所等の生活に必要なものや改善して欲しいことについて要望したり相談する時、相手が自分と同性でなければ言いにくいと思われる（思った）ことは何ですか。
あてはまるものにいくつでも○をつけてください。



同性に相談したい避難所等の生活での要望や相談ごとは、「トイレや排泄について」(69.5%)が最も多く、7割弱となっている。以下、「下着や衣服のことについて」(63.2%)が6割台、「生理用品について」(54.7%)と「体のこと等、健康面について」(53.2%)が5割台で続いている。

(5) 震災や豪雨災害後、自分自身や家族に生じた問題

問9 東日本大震災や豪雨災害の後、あなた自身または家族に、困ったことや問題がおきていますか（おきましたか）。
あてはまるものはいくつでも○をつけてください。

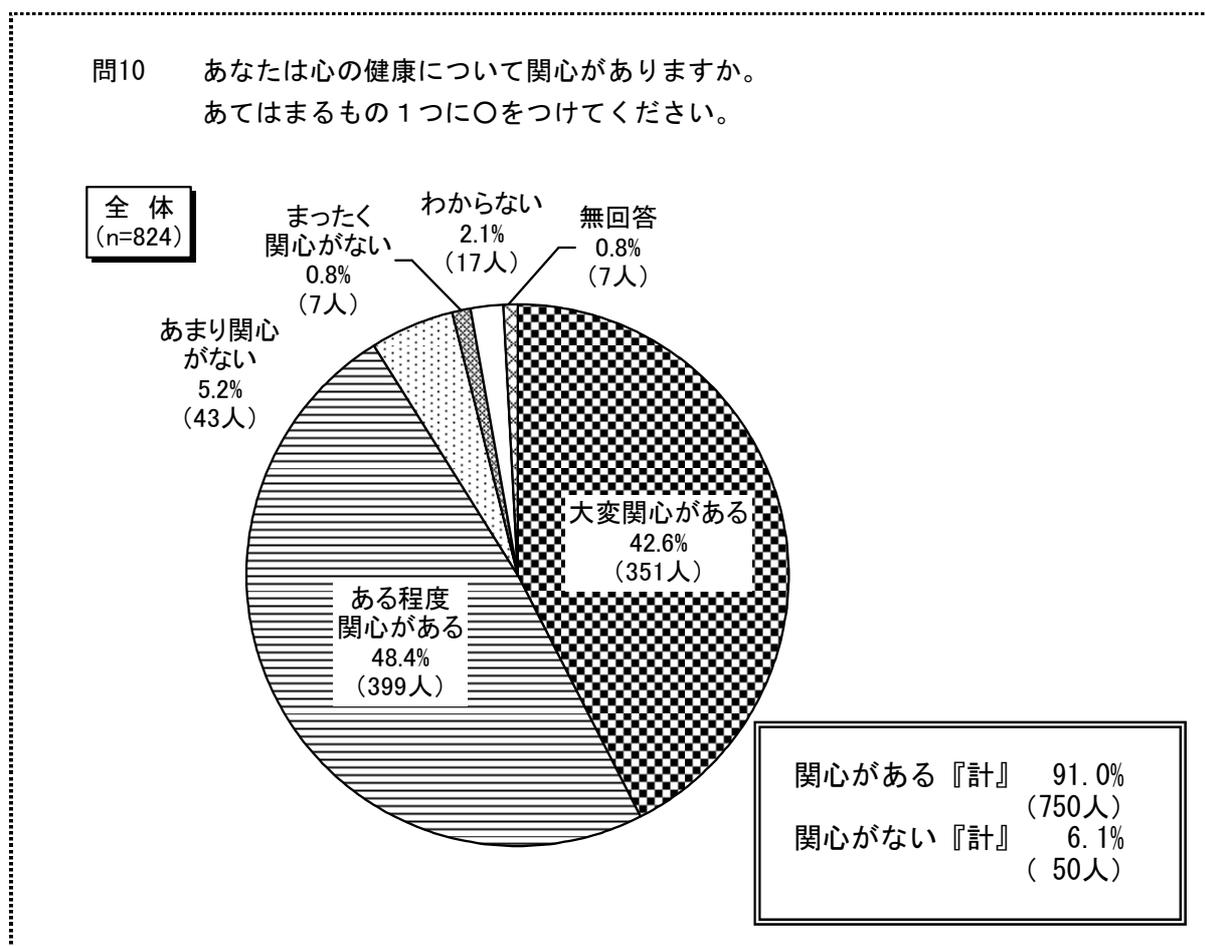


東日本大震災や豪雨災害後、自分自身や家族におきている問題として、「ストレス等で精神的につらく夜も眠れない」（26.0%）が最も多くなっている。以下、「経済的に苦しい、または仕事がない等、生活の見通しがたたない」（22.2%）、「家事、育児、介護等に負担を感じるようになった」（17.5%）と続いている。

一方、問題は「特にない」（38.1%）が4割弱となっている。

3 心の健康について

(1) 心の健康への関心の有無

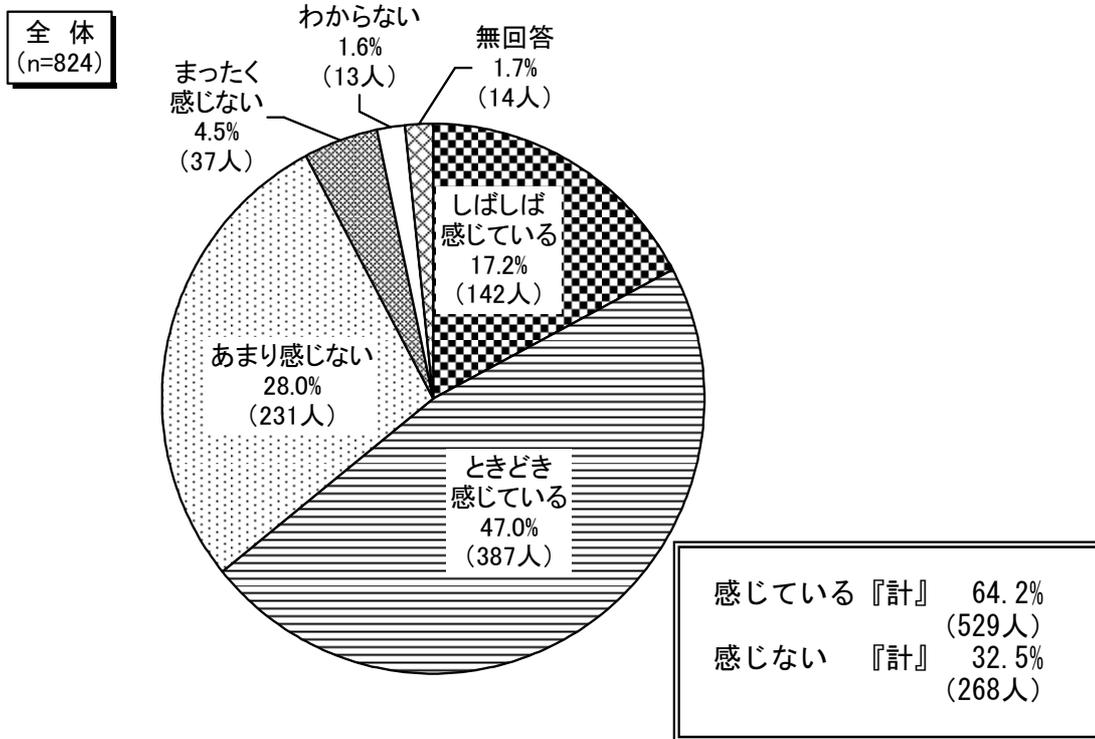


心の健康に「大変関心がある」と回答した人は42.6%で、これに「ある程度関心がある」（48.4%）を合わせた『関心がある』計の割合は91.0%となっている。

一方、「まったく関心がない」は0.8%で、これに「あまり関心がない」（5.2%）を合わせた『関心がない』計の割合は6.1%となっている。

(2) 精神的な疲労の認識

問11 ふだん、気分が落ち込む、あるいは精神的に疲れていると感じることがありますか。
あてはまるもの1つに○をつけてください。



気分の落ち込みや精神的な疲労を「しばしば感じている」と回答した人は17.2%で、これに「時々感じている」(47.0%)を合わせた『感じている』計の割合は64.2%となっている。

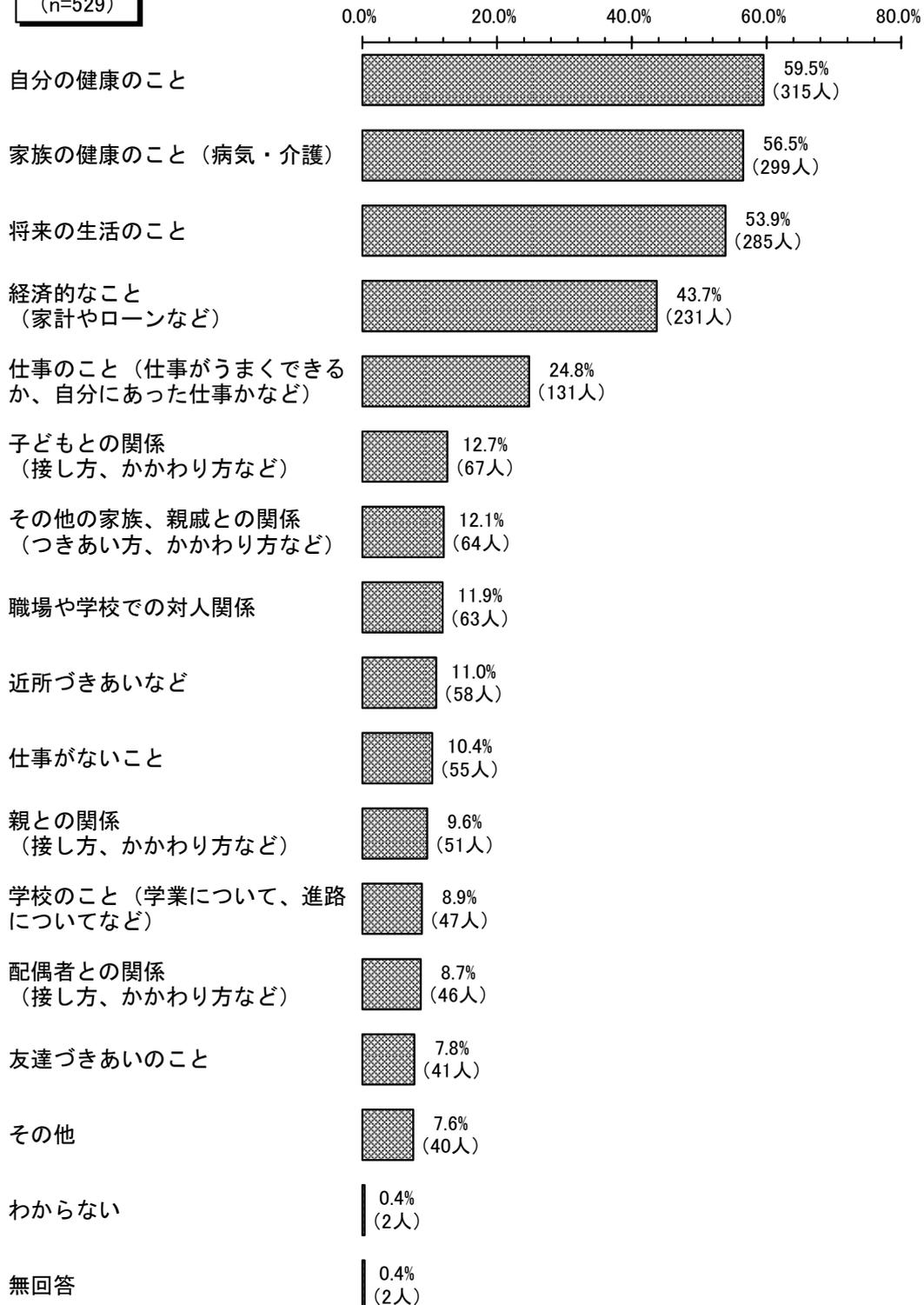
一方、「まったく感じない」は4.5%で、これに「あまり感じない」(28.0%)を合わせた『感じない』計の割合は32.5%となっている。

(3) 心の負担になっていること

(問11で、「1 しばしば感じている」、または「2 ときどき感じている」とお答えの方にお尋ねします。)

問11-1 主にどのようなことが心の負担になりますか。
あてはまるものに、いくつでも○をつけてください。

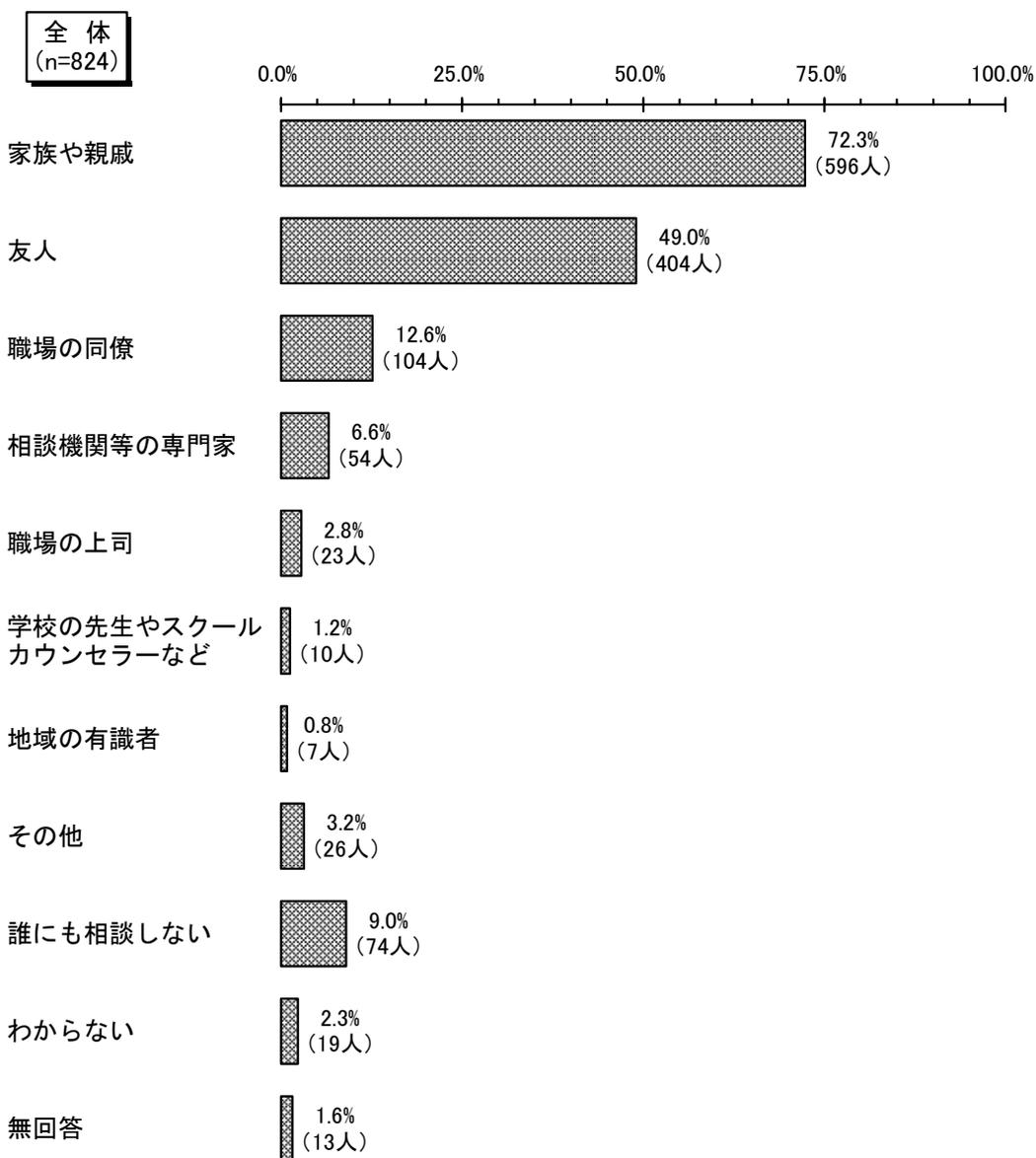
該当者全体
(n=529)



心の負担になることは、「自分の健康のこと」（59.5%）が最も多く、ほとんど差がなく「家族の健康のこと（病気、介護）」（56.5%）が続いている。以下、「将来の生活のこと」（53.9%）、「経済的なこと（家計やローンなど）」（43.7%）、「仕事のこと（仕事がうまくできるか、自分にあった仕事かなど）」（24.8%）などとなっている。

(4) 心の健康についての相談先

問12 心の健康について心配なことがある時、あなたは誰に相談しますか。
あてはまるものに、いくつでも○をつけてください。

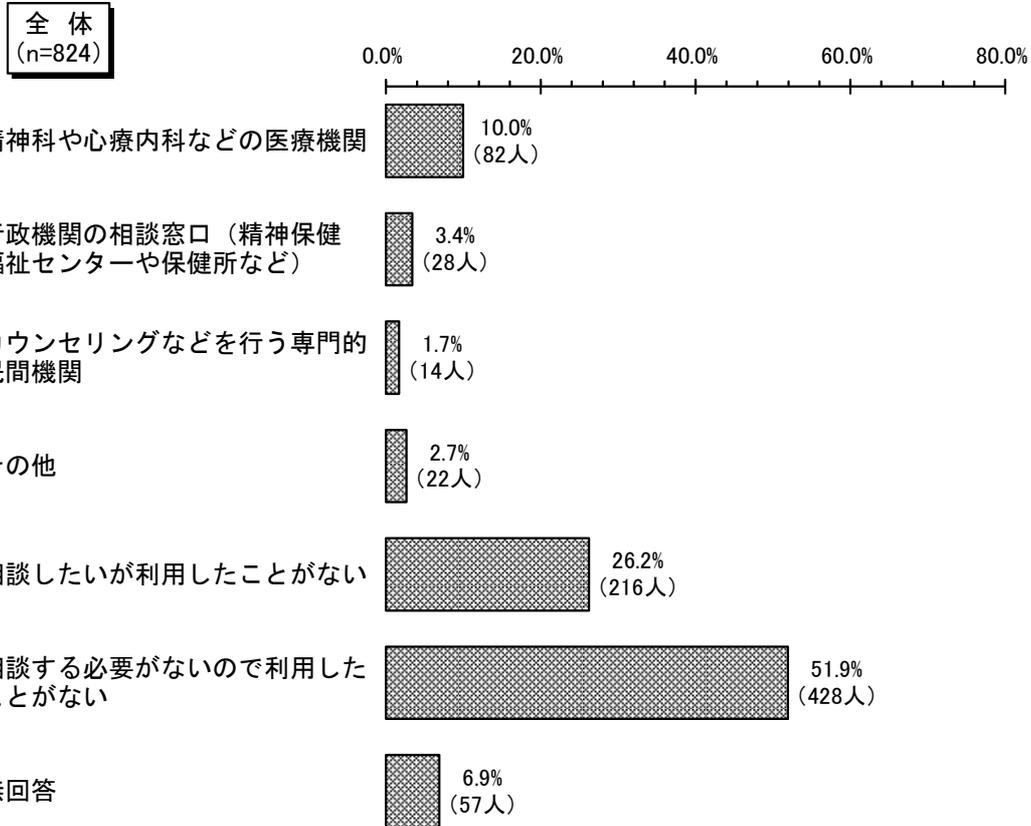


心の健康の相談先は「家族や親戚」(72.3%)が最も多く、7割強となっている。以下、「友人」(49.0%)が5割弱、「職場の同僚」(12.6%)が1割台となっている。

一方、「誰にも相談しない」が9.0%、「わからない」が2.3%となっている。

(5) 利用したことのある相談機関

問13 心の健康について相談するため、どのような相談機関を利用したことがありますか。
あてはまるものに、いくつでも○をつけてください。



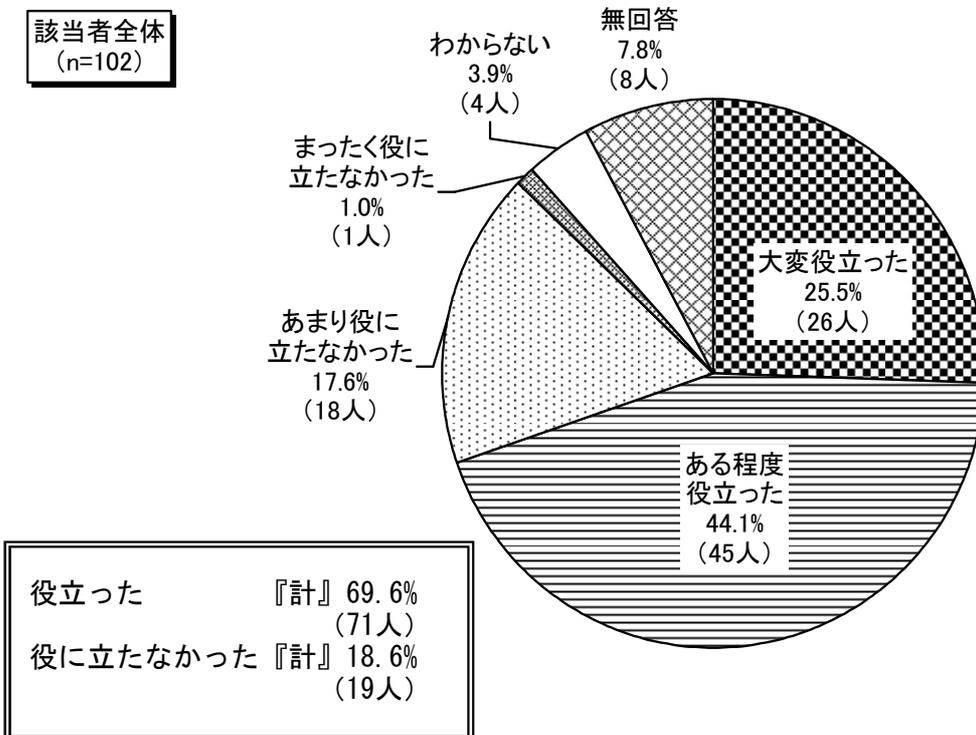
利用したことのある相談機関については、「相談する必要がないので利用したことがない」(51.9%)が最も多く5割を超えている。次いで、「相談したいが利用したことがない」(26.2%)の順となっている。

一方、利用したことのある相談機関で回答が最も多かったものは、「精神科や心療内科などの医療機関」の10.0%となっている。

(6) 相談結果の状況

(問13で「1 行政機関の相談窓口」、「2 精神科や心療内科などの医療機関」または「3 カウンセリングなどを行う専門的民間機関」とお答えの方にお尋ねします。)

問13-1 相談した結果は、あなたのお役に立ちましたか。
あてはまるもの1つに○をつけてください。

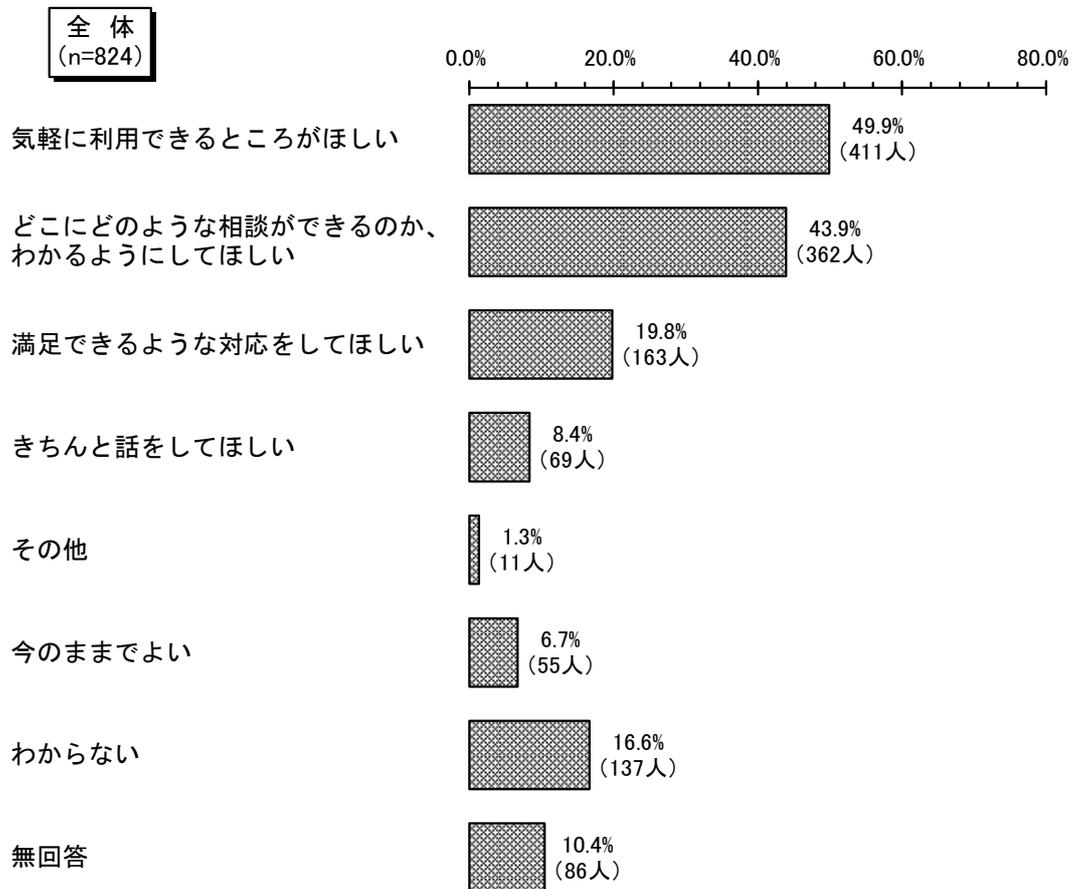


相談機関に相談して「大変役に立った」と回答した人は25.5%で、これに「ある程度役に立った」(44.1%)を合わせた『役に立った』計の割合は69.6%となっている。

一方、「まったく役に立たなかった」は1.0%で、これに「あまり役に立たなかった」(17.6%)を合わせた『役に立たなかった』計の割合は18.6%となっている。

(7) 相談機関への要望

問14 心の健康についての相談機関に対して、要望はありますか。
あてはまるものに、いくつでも○をつけてください。



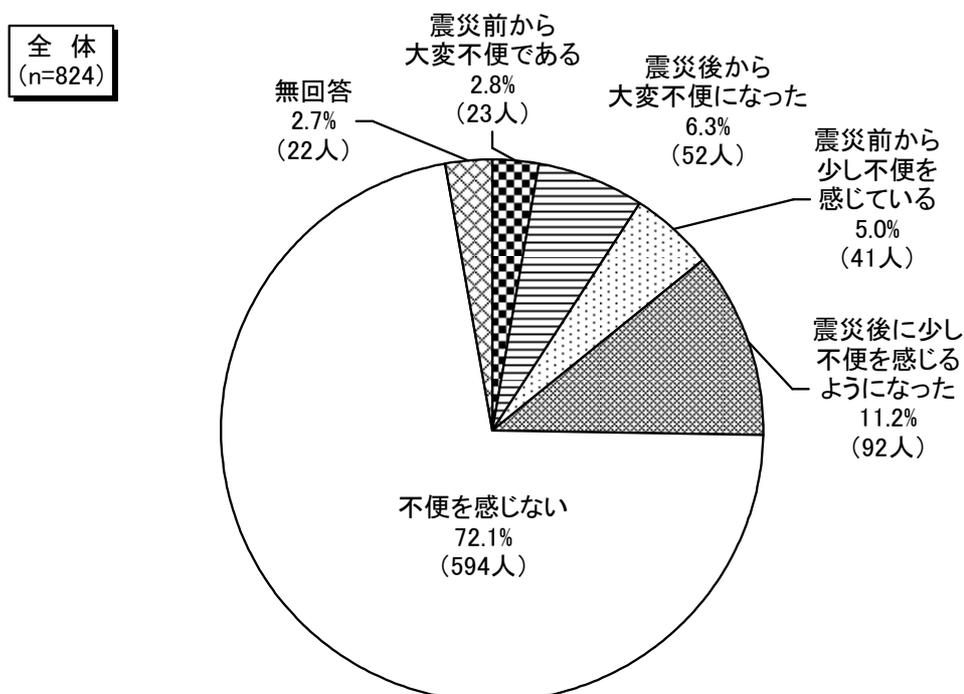
相談機関への要望は、「気軽に利用できるところがほしい」(49.9%)が最も多く、以下、「どこにどのような相談ができるのか、わかるようにしてほしい」(43.9%)、「満足できるような対応をしてほしい」(19.8%)、「きちんと話をしてほしい」(8.4%)が続いている。

一方、「今のままでよい」が6.7%、「わからない」が16.6%となっている。

4 震災後の商業環境について

(1) 現在の「買い物環境」

問15 震災前の状況を踏まえたうえで、現在のあなたの「買い物環境」についてお伺いします。
あてはまるもの1つに○をつけてください。



現在の「買い物環境」は、「不便を感じない」(72.1%)が最も多く7割強となっている。以下、「震災後に少し不便を感じるようになった」(11.2%)、「震災後から大変不便になった」(6.3%)、「震災前から少し不便を感じている」(5.0%)、「震災前から大変不便である」(2.8%)が続いている。

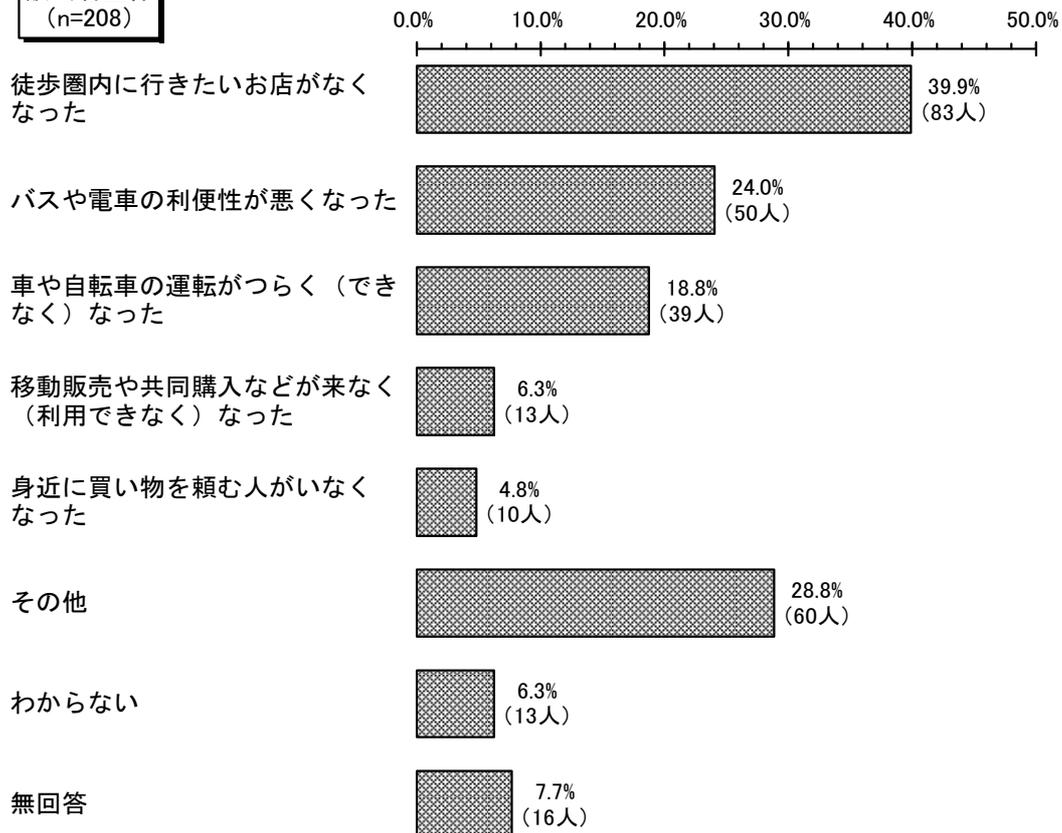
(2) 買い物で不便を感じること

(問15で「1 震災前から大変不便である」、「2 震災後から大変不便になった」、「3 震災前から少し不便を感じている」または「4 震災後に少し不便を感じるようになった」とお答えの方にお尋ねします。)

問15-1 問15で回答した不便を感じることは、どのようなことですか。
特にあてはまるもの2つに○をつけてください。

(問15で「5 不便を感じない」を選択した方は回答不要です。)

該当者全体
(n=208)

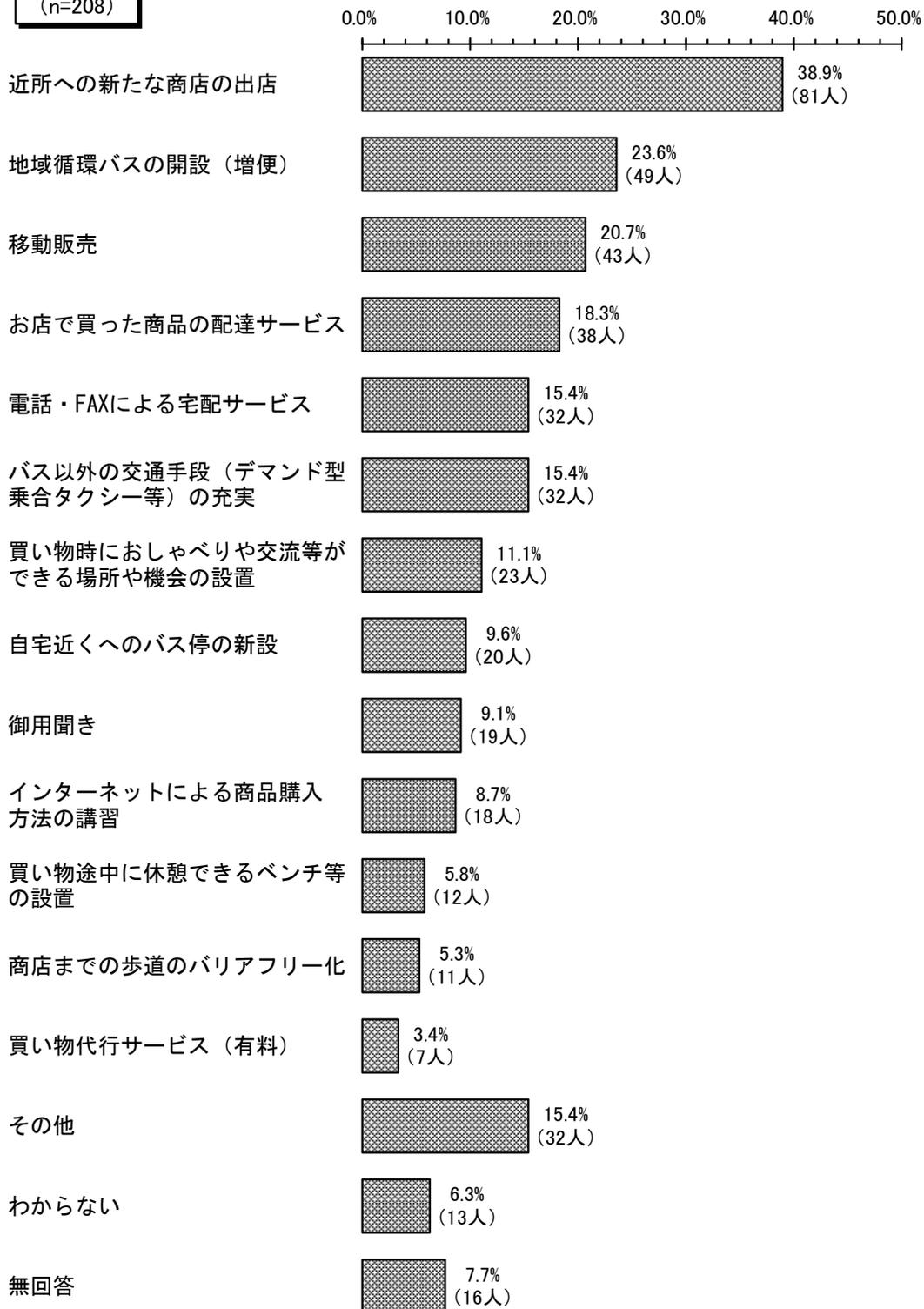


不便を感じることは、「徒歩圏内に行きたいお店がなくなった」(39.9%)が最も多く4割となっている。以下、「その他」を除き、「バスや電車の利便性が悪くなった」(24.0%)、「車や自転車の運転がつかなく(できなく)なった」(18.8%)が続いている。

(3) 買い物の不便さを改善するために必要なこと

問15-2 問15-1で回答した内容を改善するために何が必要だと思いますか。
 あてはまるもの3つに○をつけてください。
 (問15で「5 不便を感じない」を選択した方は回答不要です。)

該当者全体
 (n=208)

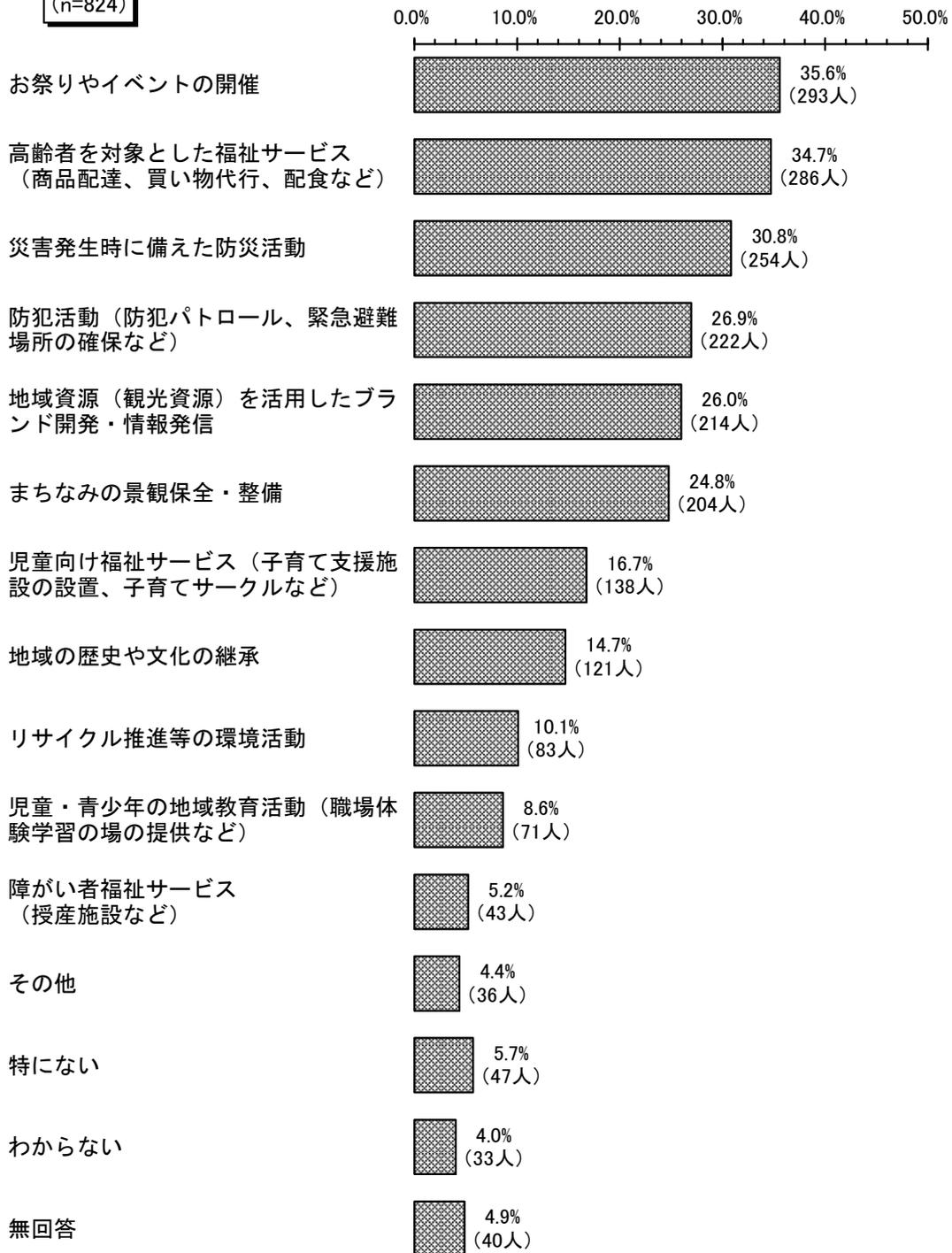


買い物の不便さを改善するために必要なことは、「近所への新たな商店の出店」(38.9%)が最も多く4割弱となっている。次いで「地域循環バスの開設(増便)」(23.6%)、「移動販売」(20.7%)が2割台、「お店で買った商品の配達サービス」(18.3%)、「電話・FAXによる宅配サービス」(15.4%)、「バス以外の交通手段(デマンド型乗合タクシー等)の充実」(15.4%)、「買い物時におしゃべりや交流等ができる場所や機会の設置」(11.1%)の順となっている。

(4) 商店街に期待する機能

問16 県は、震災後の復興に向けての対応として、地域コミュニティの核となる商店街のにぎわいづくりを進めることとしています。
 そこで、にぎわいにつながるような、商店街がこれから有すべき機能として、あなたはなにを期待をしていますか。
 あてはまるもの3つに○をつけてください。

全体
(n=824)



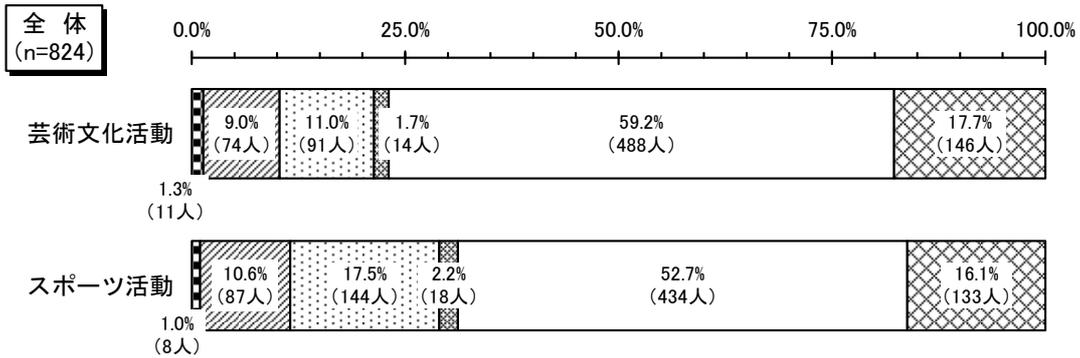
商店街がこれから有すべき機能として、「お祭りやイベントの開催」（35.6%）を期待する人が最も多く、ほとんど差がなく「高齢者を対象とした福祉サービス（商品配達、買い物代行、配食など」（34.7%）が続いている。以下、「災害発生時に備えた防災活動」（30.8%）、「防犯活動（防犯パトロール、緊急避難場所の確保など）」（26.9%）、「地域資源（観光資源）を活用したブランド開発・情報発信」（26.0%）、「まちなみの景観保全・整備」（24.8%）などとなっている。

5 芸術文化・スポーツ活動について

(1) 震災後の芸術文化・スポーツの活動状況

問17 あなたの震災後の芸術文化活動・スポーツ活動（鑑賞・ボランティア含む。）について、それぞれ、1～5の中であてはまるもの1つに○をつけてください。

- もともと活動していたが、震災以後活動時間が増えた
- もともと活動していたが、震災以後活動時間が減った
- もともと活動しておらず、震災以後も活動していない
- もともと活動しており、震災以後も活動時間は変わらない
- もともと活動していなかったが、震災以後活動するようになった
- 無回答



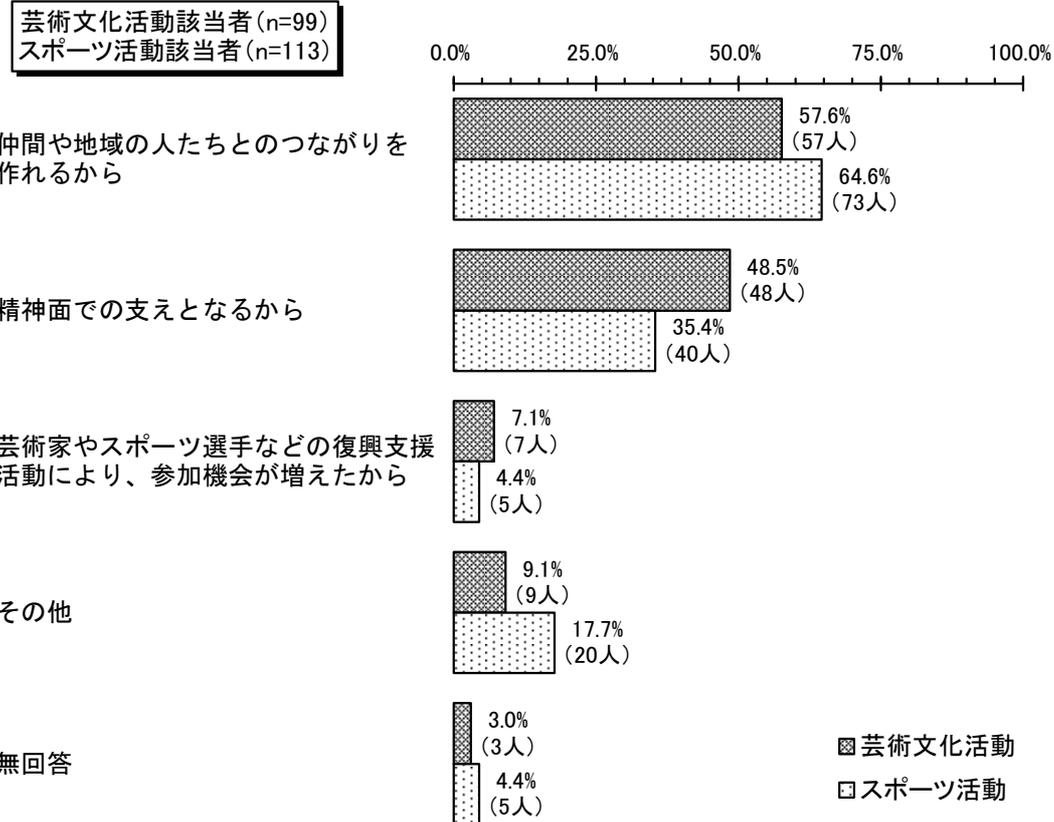
震災後の芸術文化・スポーツの活動状況は、いずれも「もともと活動しておらず、震災以後も活動していない」（芸術文化59.2%、スポーツ52.7%）が最も多くなっている。以下、「もともと活動していたが、震災以後活動時間が減った」（芸術文化11.0%、スポーツ17.5%）、「もともと活動しており、震災以後も活動時間は変わらない」（芸術文化9.0%、スポーツ10.6%）と続いている。

(2) 活動時間が増加、不変または新たに始めた理由

(問17で「ア もともと活動していたが、震災以後活動時間が増えた。」、「イ もともと活動しており、震災以後も活動時間は変わらない」または「エ もともと活動していなかったが、震災以後活動するようになった。」とお答えの方にお尋ねします。)

問17-1 その理由は何ですか。

それぞれ、1～4の中であてはまるものにもいくつか○をつけてください。



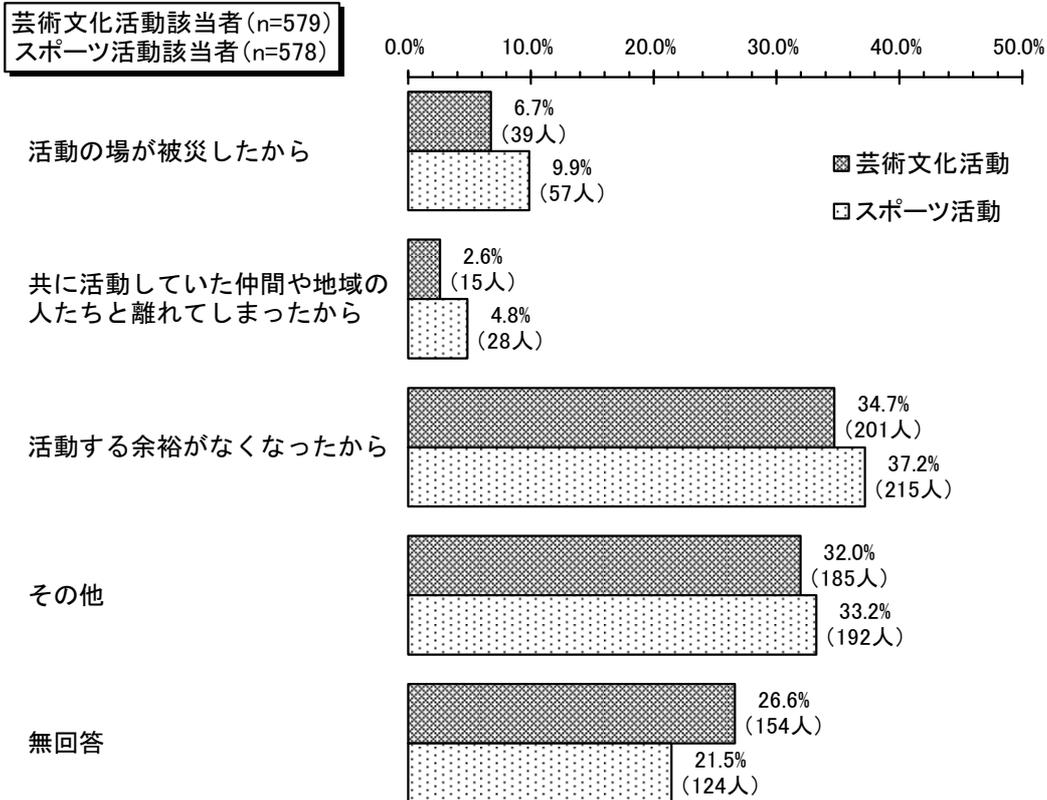
震災以後も活動時間が増えた、変わらない、または活動するようになった理由は、いずれも「仲間や地域の人たちとのつながりを作るから」（芸術文化57.6%、スポーツ64.6%）が最も多くなっている。以下、「その他」を除き、「精神面での支えとなるから」（芸術文化48.5%、スポーツ35.4%）、「芸術家やスポーツ選手などの復興支援活動により、参加機会が増えたから」（芸術文化7.1%、スポーツ4.4%）が続いている。

(3) 活動時間が減少または活動しない理由

(問17で「ウ もともと活動していたが、震災以後活動時間が減った。」または「オ もともと活動しておらず、震災以後も活動していない。」とお答えの方にお尋ねします。)

問17-2 その理由は何ですか。

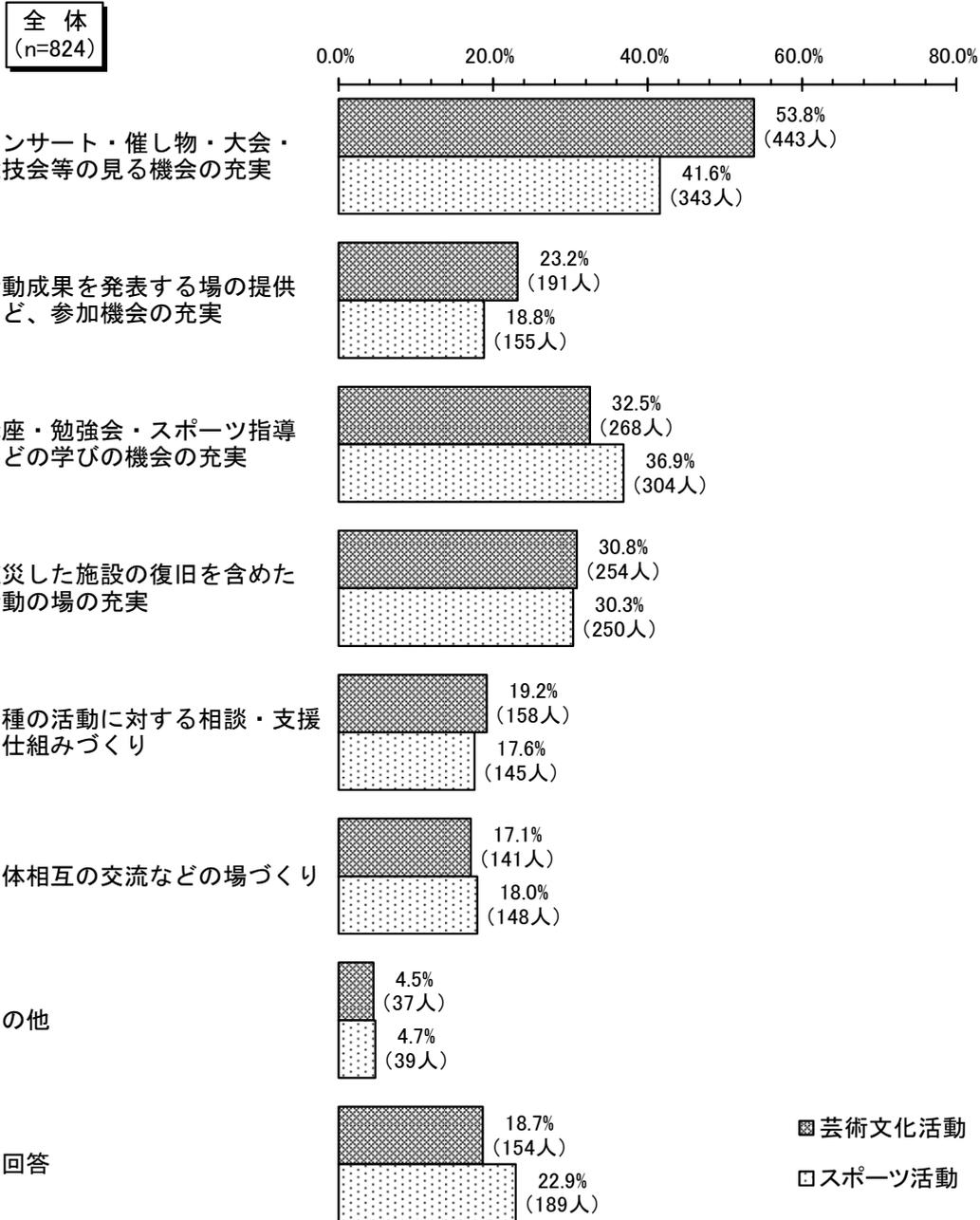
それぞれ、1～4の中であてはまるものにいくつでも○をつけてください。



震災以後は活動時間が減った、または活動していない理由は、いずれも「活動する余裕がなくなったから」（芸術文化34.7%、スポーツ37.2%）が最も多くなっている。以下、「その他」を除き、「活動の場が被災したから」（芸術文化6.7%、スポーツ9.9%）、「共に活動していた仲間や地域の人たちと離れてしまったから」（芸術文化2.6%、スポーツ4.8%）が続いている。

(4) 芸術文化・スポーツ活動振興のために取り組むべきこと

問18 今後、芸術文化活動・スポーツ活動の振興のため、優先して取り組むべきと思うものは何ですか。
それぞれ、1～7の中であてはまるもの3つに○をつけてください。



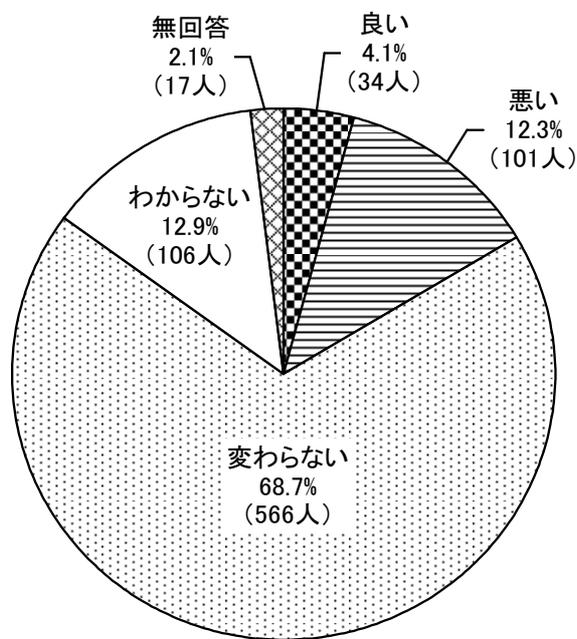
芸術文化・スポーツ活動振興のため、優先して取り組むべきことは、いずれも「コンサート・催し物・大会・競技会等の見る機会の充実」（芸術文化53.8%、スポーツ41.6%）が最も多くなっている。以下、「講座・勉強会・スポーツ指導などの学びの機会の充実」（芸術文化32.5%、スポーツ36.9%）、「被災した施設の復旧を含めた活動の場の充実」（芸術文化30.8%、スポーツ30.3%）、「活動成果を発表する場の提供など、参加機会の充実」（芸術文化23.2%、スポーツ18.8%）が続いている。

6 震災後の県内の安全・安心（治安）について

(1) 震災後の治安状況

問19 震災後、現在あなたが住んでいる地域の治安が良くなったと思いますか。
あてはまるもの1つに○をつけてください。

全体
(n=824)



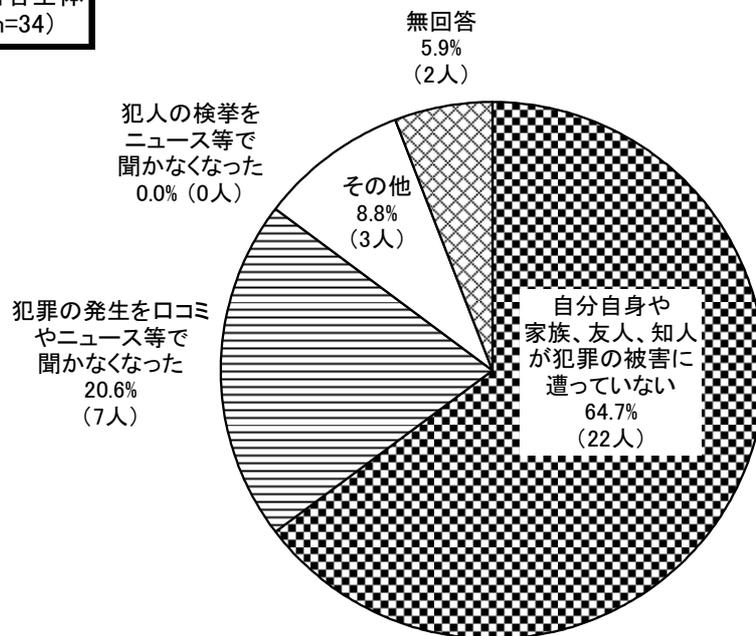
震災後、居住地域の治安状況が「良い」と思う人は4.1%で、1割に満たない。
一方、治安状況が「悪い」（12.3%）と思う人は1割強となっている。
「変わらない」（68.7%）が7割弱を占めている。

(2) 治安状況が良くなったと思う理由

(問19で「1 良い」とお答えの方にお尋ねします。)

問19-1 良くなったと思う理由は何ですか。
あてはまるもの1つに○をつけてください。

該当者全体
(n=34)



治安状況が良くなったと思う理由は、「自分自身や家族、友人、知人が犯罪の被害に遭っていない」(64.7%)が最も多くなっている。

次いで、「犯罪の発生を口コミやニュース等で聞かなくなった」(20.6%)が2割となっている。

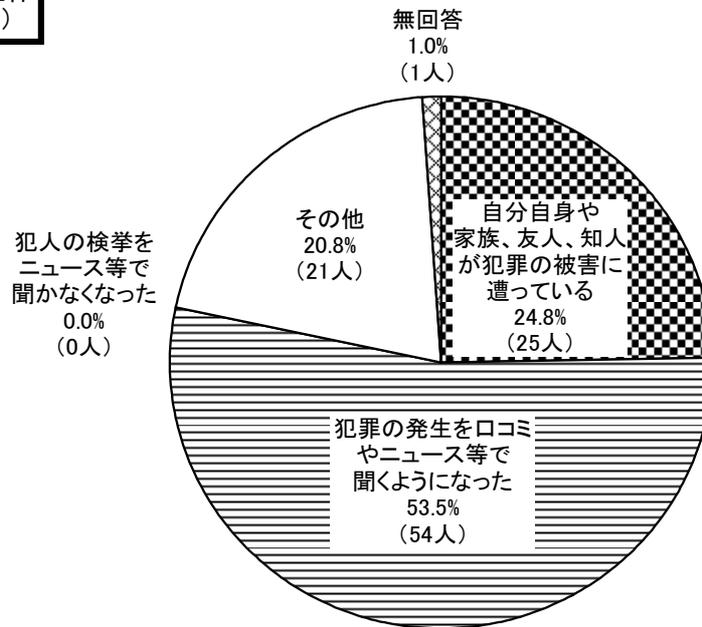
(3) 治安状況が悪くなったと思う理由

(問19で「2 悪い」とお答えの方にお尋ねします。)

問19-2 悪くなったと思う理由は何ですか。

あてはまるもの1つに○をつけてください。

該当者全体
(n=101)

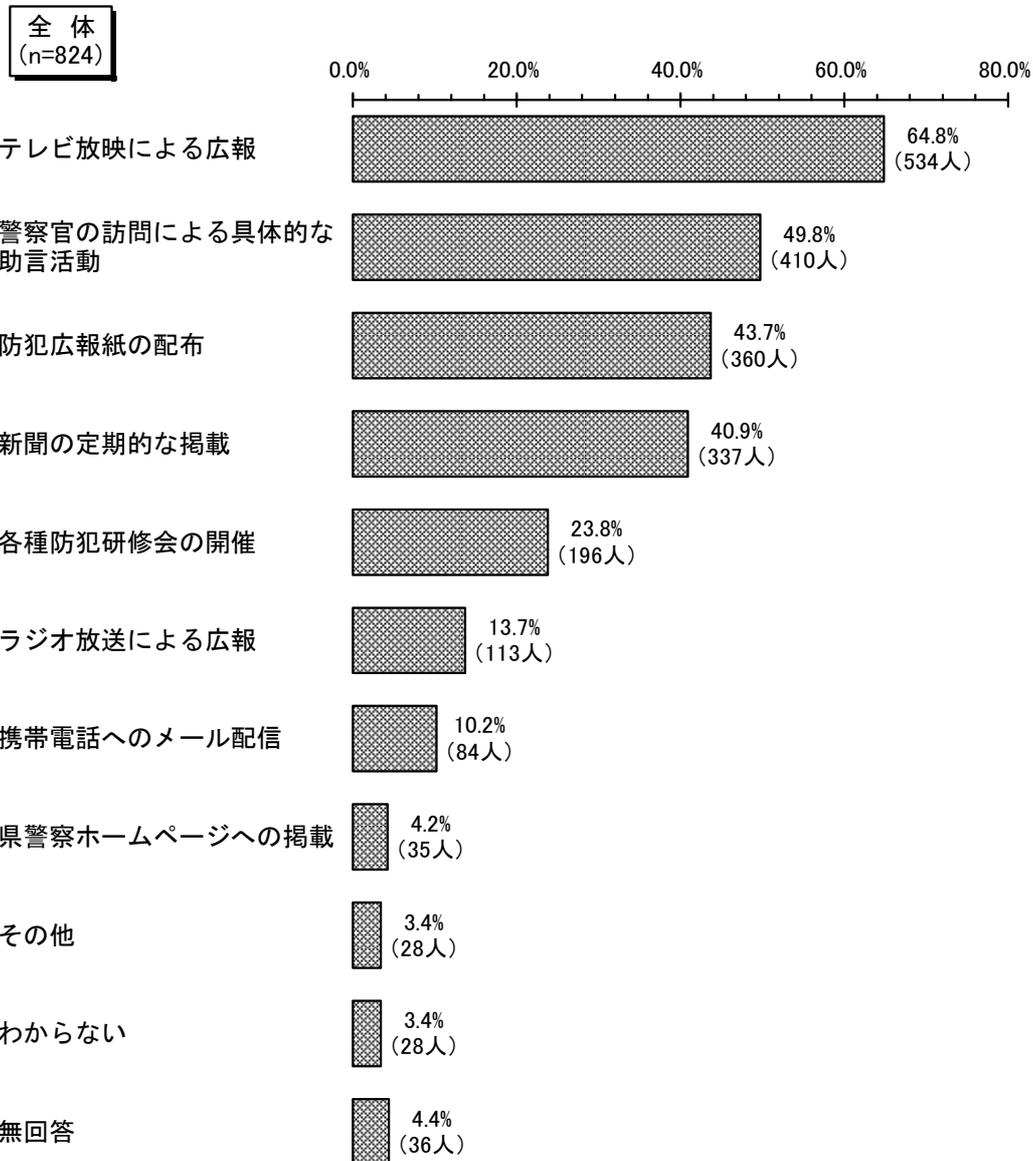


治安状況が悪くなったと思う理由は、「犯罪の発生をロコミやニュース等で聞くようになった」(53.5%)が最も多くなっている。

次いで、「自分自身や家族、友人、知人が犯罪の被害に遭っている」(24.8%)となっている。

(4) 犯罪の発生状況や防止方法等の情報の提供手段

問20 犯罪の発生状況や犯罪を未然に防止する方法等の情報について、どのような形で提供されるのがよいと思いますか。
 あてはまるもの3つに○をつけてください。

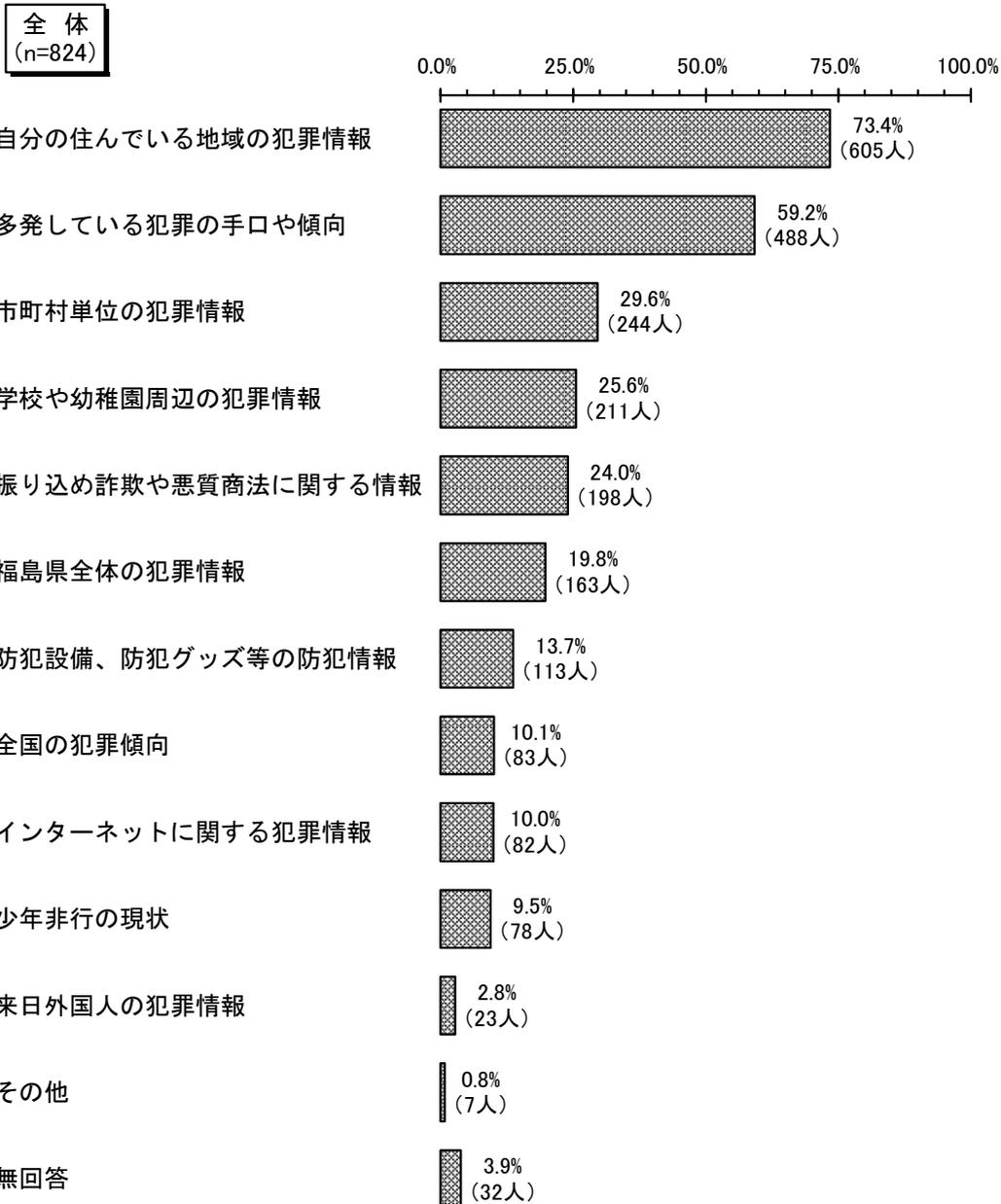


犯罪の発生状況や防止方法等の情報の提供方法については、「テレビ放映による広報」(64.8%)が最も多く、6割を超えた。次いで「警察官の訪問による具体的な助言活動」(49.8%)が約5割の順となっている。

以下、「防犯広報紙の配布」(43.7%)、「新聞の定期的な掲載」(40.9%)が4割台、「各種防犯研修会の開催」(23.8%)が2割台、「ラジオ放送による広報」(13.7%)、「携帯電話へのメール配信」(10.2%)が1割台で続いている。

(5) 犯罪に関して知りたい情報

問21 犯罪に関するどのような情報が知りたいですか。
 あてはまるもの3つに○をつけてください。



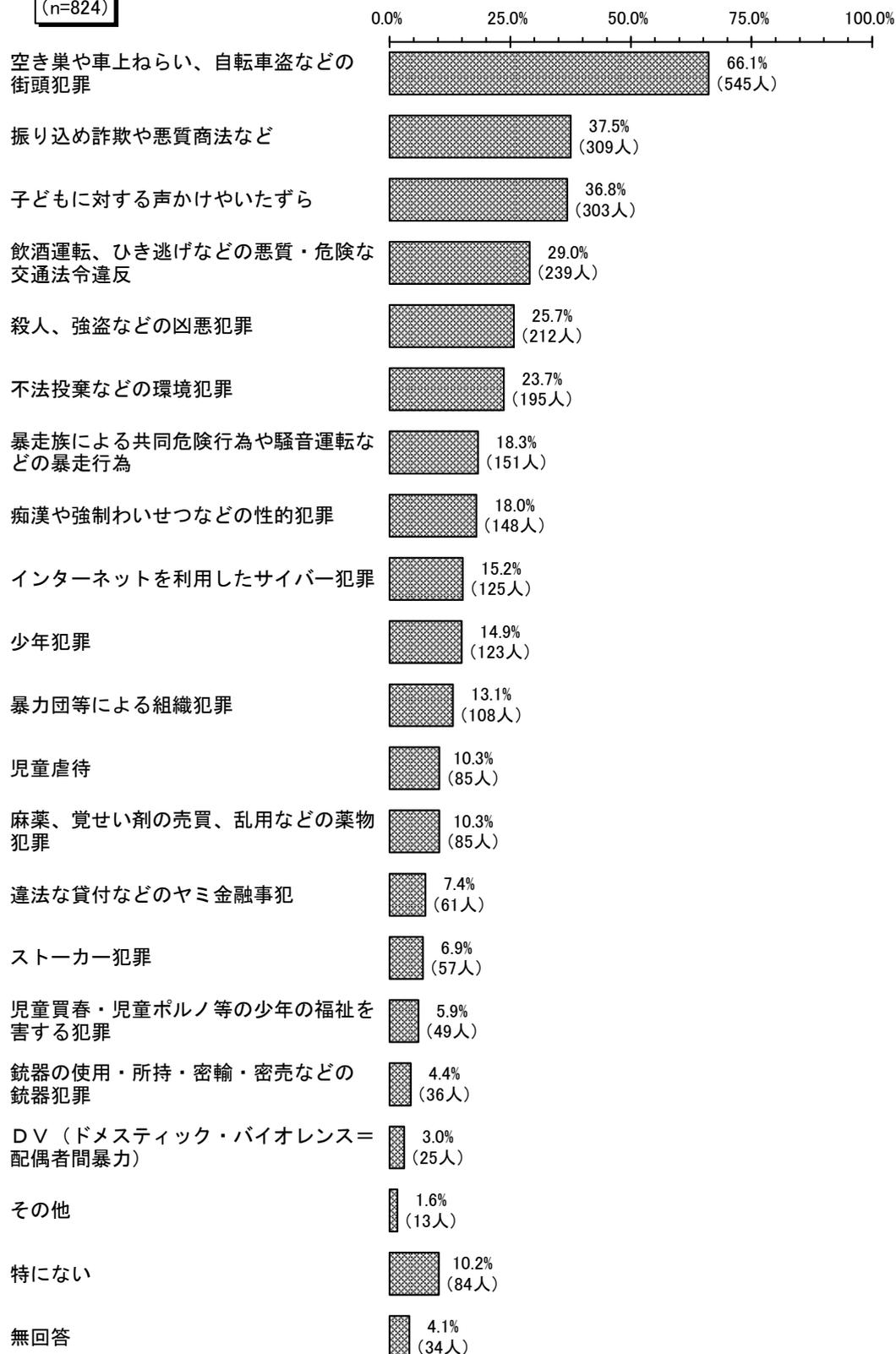
犯罪に関して知りたい情報は、「自分の住んでいる地域の犯罪情報」(73.4%)が最も多く7割を超え、次いで「多発している犯罪の手口や傾向」(59.2%)が6割弱の順となっている。

以下、「市町村単位の犯罪情報」(29.6%)、「学校や幼稚園周辺の犯罪情報」(25.6%)、「振り込め詐欺や悪質商法に関する情報」(24.0%)、「福島県全体の犯罪情報」(19.8%)が続いている。

(6) 最も不安に感じる犯罪

問22 現在お住まいの地域で最も不安に感じる犯罪は何ですか。
 あてはまるものはいくつでも○をつけてください。

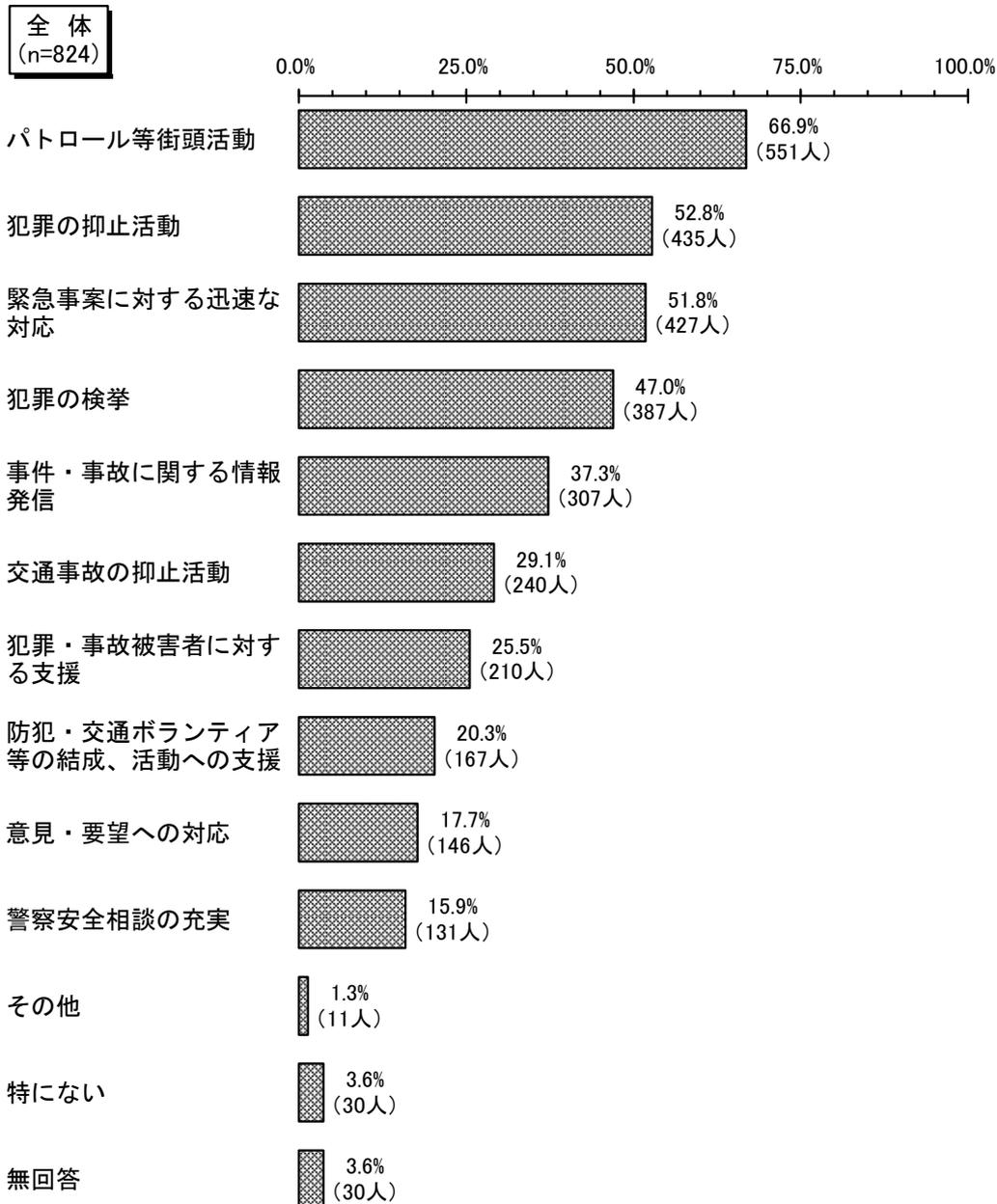
全体
 (n=824)



現在の居住地で最も不安に感じる犯罪は、「空き巣や車上ねらい、自転車盗などの街頭犯罪」（66.1%）が6割台で最も多くなっている。以下、「振り込め詐欺や悪質商法など」（37.5%）、「子どもに対する声かけやいたずら」（36.8%）、「飲酒運転、ひき逃げなどの悪質・危険な交通法令違反」（29.0%）、「殺人、強盗などの凶悪犯罪」（25.7%）、「不法投棄などの環境犯罪」（23.7%）、「暴走族による共同危険行為や騒音運転などの暴走行為」（18.3%）、「痴漢や強制わいせつなどの性的犯罪」（18.0%）が続いている。

(7) 警察に強化してほしい活動

問23 震災後の安全で安心な地域社会をつくるため、警察にどのような活動を強化して欲しいと考えますか。
あてはまるものにもいくつでも○をつけてください。



警察に強化して欲しい活動は、「パトロール等街頭活動」(66.9%)が最も多くなっている。以下、「犯罪の抑止活動」(52.8%)、「緊急事案に対する迅速な対応」(51.8%)が5割台で続き、「犯罪の検挙」(47.0%)が4割台、「事件・事故に関する情報発信」(37.3%)が3割台、「交通事故の抑止活動」(29.1%)、「犯罪・事故被害者に対する支援」(25.5%)、「防犯・交通ボランティア等の結成・活動への支援」(20.3%)が2割台、「意見・要望への対応」(17.7%)、「警察安全相談の充実」(15.9%)が1割台となっている。

7 安全で安心な県づくりについて

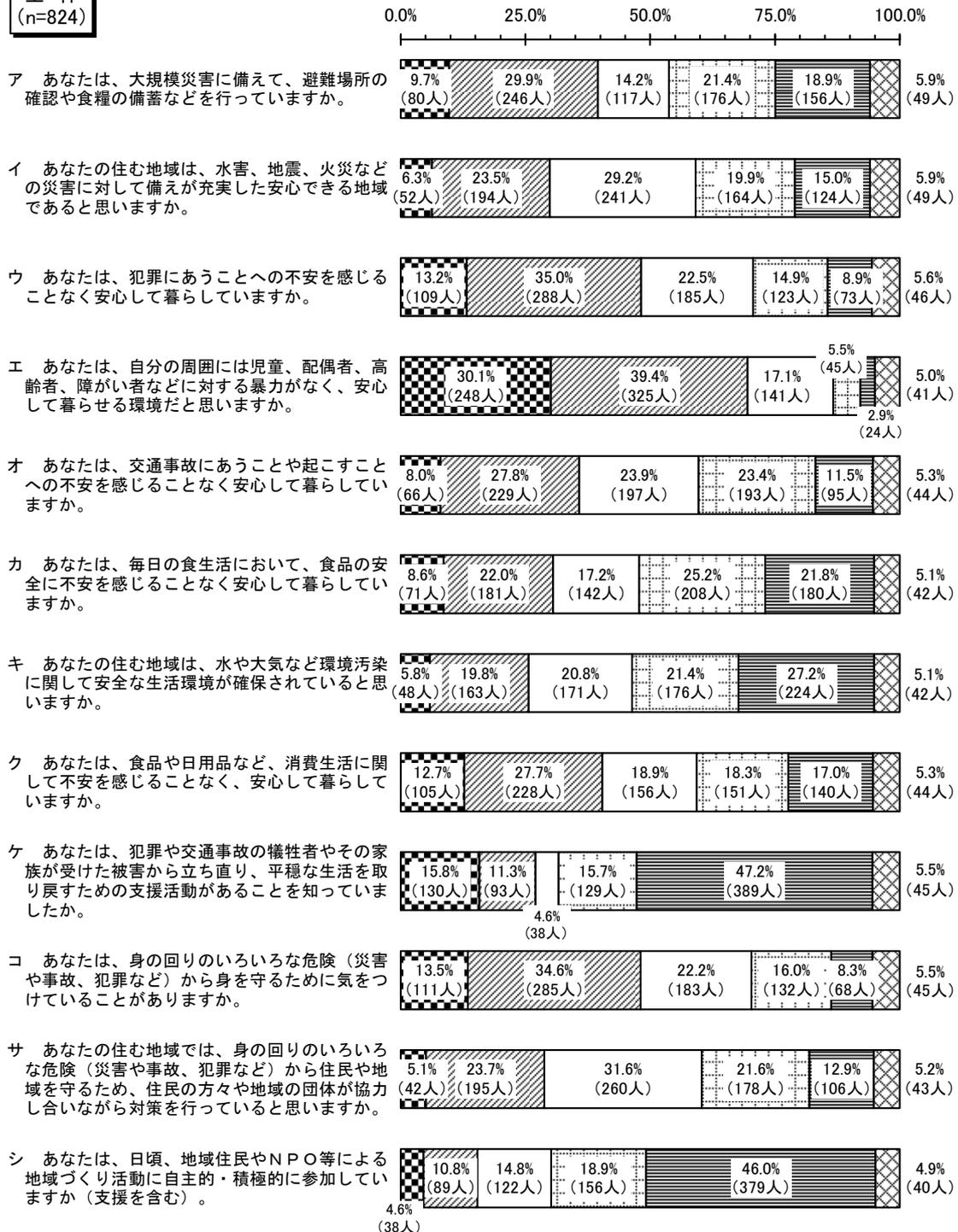
(1) 安全・安心の現状

問24 次にあげた（ア）～（シ）の項目について、あなたは現状をどのように感じていますか。

それぞれ1～5の中であてはまるもの1つに○をつけてください。

- はい
 どちらとも言えない・該当しない
 いいえ
 どちらかと言えば「はい」
 どちらかと言えば「いいえ」
 無回答

全体
(n=824)



〈あなたは、自分の周囲には児童、配偶者、高齢者、障がい者などに対する暴力がなく、安心して暮らせる環境だと思いますか〉（30.1%）に「はい」と回答した人が最も多く、3割となっている。

「はい」と「どちらかと言えば“はい”」を合わせた『はい』計の割合をみると、〈あなたは、自分の周囲には児童、配偶者、高齢者、障がい者などに対する暴力がなく、安心して暮らせる環境だと思いますか〉（69.5%）が最も多く、7割弱となっている。〈あなたは、犯罪にあうことへの不安を感じることなく安心して暮らしていますか〉（48.2%）と〈あなたは、身の回りのいろいろな危険（災害や事故、犯罪など）から身を守るために気をつけていることがありますか〉（48.1%）が5割弱、〈あなたは、食品や日用品など、消費生活に関して不安を感じることなく、安心して暮らしていますか〉（40.4%）と〈あなたは、大規模災害に備えて、避難場所の確認や食糧の備蓄などを行っていますか〉（39.6%）が約4割となっている。

一方、「いいえ」と「どちらかと言えば“いいえ”」を合わせた『いいえ』計の割合は、〈あなたは、日頃、地域住民やNPO等による地域づくり活動に自主的・積極的に参加していますか（支援を含む）〉（64.9%）と〈あなたは、犯罪や交通事故の犠牲者やその家族が受けた被害から立ち直り、平穏な生活を取り戻すための支援活動があることを知っていましたか〉（62.9%）が6割を超え、高くなっている。

Ⅲ 調査票様式

平成23年度 福島県世論調査

調 査 票

I 震災時及び現在における情報収集について

震災時及び現在の情報収集の手段や必要な情報の内容について県民の皆さまにお伺いし、今後の情報の発信方法や必要な情報提供に役立ててまいります。

問1 東日本大震災直後から1カ月程度、どのような手段で情報を入手しましたか。多く活用したもの3つまで○をつけてください。

- | | |
|--------------|------------------|
| 1 テレビ | 9 メール (パソコン) |
| 2 ラジオ | 10 メール (携帯電話) |
| 3 新聞 | 11 市町村の防災行政無線 |
| 4 本・雑誌 | 12 勤務先 |
| 5 県のホームページ | 13 学校 |
| 6 県以外のホームページ | 14 自主防災組織 |
| 7 ツイッター、ブログ | 15 近所の方 |
| 8 電話 (固定、携帯) | 16 その他 (具体的に :) |

問2 東日本大震災直後から1カ月程度、特にどのような情報が必要でしたか。あてはまるもの3つまで○をつけてください。

- | |
|----------------------|
| 1 ライフライン (電気、ガス、水道等) |
| 2 安否情報 |
| 3 避難所関連情報 |
| 4 燃料関係 (ガソリンスタンド等) |
| 5 生活情報 (スーパー、銭湯等) |
| 6 雇用支援 (就職、雇用保険等) |
| 7 生活支援 (生活資金、損害賠償等) |
| 8 住宅 (仮設、借り上げ、住宅修理等) |
| 9 放射線測定値 |
| 10 被害状況 |
| 11 医療情報 |
| 12 除染関係 |
| 13 交通情報 |
| 14 食品等の安全関係 |
| 15 教育関係 |
| 16 その他 (具体的に :) |

問3 現在の震災情報は、どのような手段で入手していますか。
多く活用しているもの3つまで○をつけてください。

1 テレビ	9 メール (パソコン)
2 ラジオ	10 メール (携帯電話)
3 新聞	11 市町村の防災行政無線
4 本・雑誌	12 勤務先
5 県のホームページ	13 学校
6 県以外のホームページ	14 自主防災組織
7 ツイッター、ブログ	15 近所の方
8 電話 (固定、携帯)	16 その他 (具体的に :)

問4 現在の震災情報では、特にどのような情報が必要ですか。
あてはまるもの3つまで○をつけてください。

1 ライフライン (電気、ガス、水道等)
2 安否情報
3 避難所関連情報
4 燃料関係 (ガソリンスタンド等)
5 生活情報 (スーパー、銭湯等)
6 雇用支援 (就職、雇用保険等)
7 生活支援 (生活資金、損害賠償等)
8 住宅 (仮設、借り上げ、住宅修理等)
9 放射線測定値
10 被害状況
11 医療情報
12 除染関係
13 交通情報
14 食品等の安全関係
15 教育関係
16 その他 (具体的に :)

II 男女共同参画の視点からの災害対応について

県では、男性も女性もお互いに対等なパートナーとして尊敬し共に生きる社会、男女が共に自分の可能性を伸ばし、共に力を発揮して喜びも責任も分かち合う社会を目指しています (男女共同参画社会)。

今回の東日本大震災や豪雨災害を受け、防災や避難生活について県民の皆さまのご意見をお伺いし、今後の防災における男女共同参画の推進に役立ててまいります。

実際に被災されなかった方も、避難生活を送ることを想定してお答えください。

問5 あなたの地域で、防災に関する計画 (防災や被害を小さくするための計画、避難する時の計画など) を立てたり、決めごとをする場合、男性も女性も同じようにメンバーとして参加する必要があると思いますか。

あてはまるもの1つに○をつけてください。

- 1 必要である
- 2 必要ない（男性だけや、女性だけで決めて構わない） → （問5－1へ）

（問5で、「2 必要ない」とお答えの方にお尋ねします。）

問5－1 防災に関して計画を立てたり、決めごとをする場合に、男性だけ、または女性だけで決めても構わないと考える理由をお聞かせください。

理由 [具体的に :]

問6 避難所で配慮して欲しい設備はどのようなものですか。
あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

- 1 人の目を気にする必要のない、着替えや授乳のための部屋
- 2 人の目を気にする必要のない洗濯物を干す場所
- 3 周りに気兼ねなく喫煙できる部屋
- 4 完全に個室となるような背の高い仕切りやテント
- 5 子どもたちが遊べるスペース
- 6 男性だけ（女性だけ）で談話できる部屋
- 7 ペットを置いておけるスペース
- 8 男女別のトイレ
- 9 段差のない通路や出入口
- 10 その他（具体的に :)
- 11 特にない

問7 次のうち災害時に「性別の違い」に気を配った対応が必要と思うものはどれですか。
あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

- 1 防災や災害復興のための計画・事業
- 2 避難所での生活スペースの割り振り
- 3 避難所を運営するメンバーに男性も女性も同じように加わること
- 4 支援物資の供給
- 5 被災者への相談体制
- 6 救援医療体制
- 7 情報の提供
- 8 その他（具体的に :)
- 9 特にない

問8 避難所等の生活で必要なものや改善して欲しいことについて要望したり相談する時、相手が自分と同性でなければ言いにくいと思われる（思った）ことは何ですか。
あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1 下着や衣服のことについて 2 トイレや排泄について 3 生理用品について 4 体のこと等、健康面について | <ol style="list-style-type: none"> 5 仕事のことについて 6 その他（具体的に :) 7 相手が男性でも女性でも困ることはない |
|---|---|

問9 東日本大震災や豪雨災害の後、あなた自身または家族に、困ったことや問題がおきていますか（おきましたか）。

あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

- | |
|---------------------------------|
| 1 家事、育児、介護等に負担を感じるようになった |
| 2 経済的に苦しい、または仕事がない等、生活の見通しがたたない |
| 3 知り合いが近くにおらず、一日中だれともしゃべることがない |
| 4 落ち着いて勉強や読書ができない |
| 5 ストレス等で精神的につらく夜も眠れない |
| 6 飲酒量が増えた |
| 7 家族から身体的暴力または精神的苦痛をうける |
| 8 家族に暴力をふるう、または無視したりひどいことを言う |
| 9 性的な嫌がらせ、又は、性的な暴力をうけた |
| 10 その他（具体的に： _____） |
| 11 特になし |

Ⅲ 心の健康について

震災や不況で不安やストレスを感じておられる方が多いと思います。

うつ病をはじめ、多くの心の健康問題が引き起こされており、県民一人ひとりが心の健康に関心をもつこと、そして、悩みを気軽に相談できる必要があると考えています。

心の健康問題に適切に対応し、県民の心の健康保持増進に寄与するため、県民の皆さまから「心の健康」についてお伺いし、今後の各種施策に役立ててまいります。

問10 あなたは心の健康について関心がありますか。

あてはまるもの1つに○をつけてください。

- | |
|-------------|
| 1 大変関心がある |
| 2 ある程度関心がある |
| 3 あまり関心がない |
| 4 まったく関心がない |
| 5 わからない |

問11 ふだん、気分が落ち込む、あるいは精神的に疲れていると感じることがありますか。

あてはまるもの1つに○をつけてください。

- | | |
|-------------|------------|
| 1 しばしば感じている | } (問11-1へ) |
| 2 ときどき感じている | |
| 3 あまり感じない | |
| 4 まったく感じない | |
| 5 わからない | |

(問11で、「1 しばしば感じている」、または「2 ときどき感じている」とお答えの方にお尋ねします。)

問11-1 主にどのようなことが心の負担になりますか。

あてはまるものに、いくつでも○をつけてください。

- 1 自分の健康のこと
- 2 家族の健康のこと（病気・介護）
- 3 経済的なこと（家計やローンなど）
- 4 仕事のこと（仕事がうまくできるか、自分にあった仕事かなど）
- 5 仕事がないこと
- 6 学校のこと（学業について、進路についてなど）
- 7 将来の生活のこと
- 8 親との関係（接し方、かかわり方など）
- 9 子どもとの関係（接し方、かかわり方など）
- 10 配偶者との関係（接し方、かかわり方など）
- 11 その他の家族、親戚との関係（つきあい方、かかわり方など）
- 12 友達づきあいのこと
- 13 近所づきあいなど
- 14 職場や学校での対人関係
- 15 その他（具体的に： _____)
- 16 わからない

問 1 2 心の健康について心配なことがある時、あなたは誰に相談しますか。
あてはまるものに、いくつでも○をつけてください。

- 1 家族や親戚
- 2 友人
- 3 職場の同僚
- 4 職場の上司
- 5 学校の先生やスクールカウンセラーなど
- 6 地域の有識者
- 7 相談機関等の専門家
- 8 その他（具体的に： _____)
- 9 誰にも相談しない
- 10 わからない

問 1 3 心の健康について相談するため、どのような相談機関を利用したことがありますか。
あてはまるものに、いくつでも○をつけてください。

- | | | |
|---|---|---------------|
| <ol style="list-style-type: none"> 1 行政機関の相談窓口（精神保健福祉センターや保健所など） 2 精神科や心療内科などの医療機関 3 カウンセリングなどを行う専門的民間機関 4 その他（具体的に： _____) 5 相談したいが利用したことがない 6 相談する必要がないので利用したことがない | } | (問 1 3 - 1 ~) |
|---|---|---------------|

(問13で「1 行政機関の相談窓口」、「2 精神科や心療内科などの医療機関」または「3 カウンセリングなどを行う専門的民間機関」とお答えの方にお尋ねします。)

問13-1 相談した結果は、あなたのお役に立ちましたか。
あてはまるもの1つに○をつけてください。

- 1 大変役立った
- 2 ある程度役立った
- 3 あまり役に立たなかった
- 4 まったく役に立たなかった
- 5 わからない

問14 心の健康についての相談機関に対して、要望はありますか。
あてはまるものに、いくつでも○をつけてください。

- 1 どこにどのような相談ができるのか、わかるようにしてほしい
- 2 気軽に利用できるところがほしい
- 3 きちんと話をしてほしい
- 4 満足できるような対応をしてほしい
- 5 その他（具体的に： _____）
- 6 今のままでよい
- 7 わからない

IV 震災後の商業環境について

県内においては、東日本大震災及び原発事故発生直後、電気・水道の供給停止をはじめ、日用品やガソリンの供給不足など県民生活は大変な状態に陥りました。

安全・安心、快適な暮らしのための商業環境の整備に向けて、県民の皆さまの御意見をお伺いし、今後の各種施策に役立ててまいります。

問15 震災前の状況を踏まえ、現在のあなたの「買い物環境」についてお伺いします。あてはまるもの1つに○をつけてください。

- | | |
|---|------------------------|
| <ol style="list-style-type: none">1 震災前から大変不便である2 震災後から大変不便になった3 震災前から少し不便を感じている4 震災後に少し不便を感じるようになった5 不便を感じない | } (問15-1へ)
(問15-2へ) |
|---|------------------------|

(問15で「1 震災前から大変不便である」、「2 震災後から大変不便になった」、「3 震災前から少し不便を感じている」または「4 震災後に少し不便を感じるようになった」とお答えの方にお尋ねします。)

問15-1 問15で回答した不便を感じることは、どのようなことですか。
特にあてはまるもの2つに○をつけてください。

(問15で「5 不便を感じない」を選択した方は回答不要です。)

- 1 徒歩圏内に行きたいお店がなくなった
- 2 移動販売や共同購入などが来なく（利用できなく）なった
- 3 車や自転車の運転が（できなく）なった
- 4 バスや電車の利便性が悪くなった
- 5 身近に買い物を頼む人がなくなった
- 6 その他（具体的に： _____）
- 7 わからない

問15-2 問15-1で回答した内容を改善するために何が必要だと思いますか。
 あてはまるもの3つに○をつけてください。
 （問15で「5 不便を感じない」を選択した方は回答不要です。）

- 1 近所への新たな商店の出店
- 2 電話・FAXによる宅配サービス
- 3 お店で買った商品の配達サービス
- 4 インターネットによる商品購入方法の講習
- 5 御用聞き
- 6 買い物代行サービス（有料）
- 7 移動販売
- 8 地域循環バスの開設（増便）
- 9 自宅近くへのバス停の新設
- 10 バス以外の交通手段（デマンド型乗合タクシー等）の充実
- 11 買い物途中に休憩できるベンチ等の設置
- 12 商店までの歩道のバリアフリー化
- 13 買い物時におしゃべりや交流等ができる場所や機会の設置
- 14 その他（具体的に： _____）
- 15 わからない

〈参考 1〉「デマンド型乗合タクシー」とは

デマンド型乗合タクシーは、目的地に直行する通常のタクシーとは異なり、他の人も乗り合って目的地に送迎する形態のタクシーで、タクシーの便利さをバス並みの料金で実現するものです。

問16 県は、震災後の復興に向けての対応として、地域コミュニティの核となる商店街のにぎわいづくりを進めることとしています。

そこで、にぎわいにつながるような、商店街がこれから有すべき機能として、あなたはなに期待をしていますか。

あてはまるもの3つに○をつけてください。

- 1 お祭りやイベントの開催
- 2 地域資源（観光資源）を活用したブランド開発・情報発信
- 3 地域の歴史や文化の継承
- 4 まちなみの景観保全・整備
- 5 高齢者を対象とした福祉サービス（商品配達、買い物代行、配食など）
- 6 児童向け福祉サービス（子育て支援施設の設置、子育てサークルなど）
- 7 障がい者福祉サービス（授産施設など）
- 8 児童・青少年の地域教育活動（職場体験学習の場の提供など）
- 9 防犯活動（防犯パトロール、緊急避難場所の確保など）
- 10 災害発生時に備えた防災活動
- 11 リサイクル推進等の環境活動
- 12 その他（具体的に： _____)
- 13 特になし
- 14 わからない

V 芸術文化・スポーツ活動について

芸術文化やスポーツは、県民の思いをつなぎ、人々のこころ豊かな生活を実現するとともに、活力に満ちた社会や個性豊かな地域社会の形成などの重要な要素となることから、地域のきずなの再生・発展に欠かすことができないものと考えます。

東日本大震災からの復旧・復興にあたり、県民の皆さまの芸術文化活動やスポーツ活動を支援していくため、県民の皆さまに御意見をお伺いし、今後の各種施策に役立ててまいります。

問17 あなたの震災後の芸術文化活動・スポーツ活動（鑑賞・ボランティア含む。）について、それぞれ、1～5の中であてはまるもの**1つに○**をつけてください。

	芸術文化活動	スポーツ活動
ア もともと活動していたが、震災以後活動時間が増えた (問17-1へ)	1	1
イ もともと活動しており、震災以後も活動時間は変わらない (問17-1へ)	2	2
ウ もともと活動していたが、震災以後活動時間が減った (問17-2へ)	3	3
エ もともと活動していなかったが、震災以後活動するようになった (問17-1へ)	4	4
オ もともと活動しておらず、震災以後も活動していない (問17-2へ)	5	5

(問17で「ア もともと活動していたが、震災以後活動時間が増えた。」、「イ もともと活動しており、震災以後も活動時間は変わらない」または「エ もともと活動していなかったが、震災以後活動するようになった。」とお答えの方にお尋ねします。)

問17-1 その理由は何ですか。

それぞれ、1～4の中であてはまるものに**いくつでも○**をつけてください。

	芸術文化活動	スポーツ活動
ア 仲間や地域の人たちとのつながりを作れるから	1	1
イ 精神面での支えとなるから	2	2
ウ 芸術家やスポーツ選手などの復興支援活動により、参加機会が増えたから	3	3
エ その他	4	4

エの場合、具体的に（ ）

(問17で「ウ もともと活動していたが、震災以後活動時間が減った。」または「オ もともと活動しておらず、震災以後も活動していない。」とお答えの方にお尋ねします。)

問17-2 その理由は何ですか。

それぞれ、1～4の中であてはまるものにいくつでも○をつけてください。

	芸術文化活動	スポーツ活動
ア 活動の場が被災したから	1	1
イ 共に活動していた仲間や地域の人たちと離れてしまったから	2	2
ウ 活動する余裕がなくなったから	3	3
エ その他	4	4

エの場合、具体的に（ ）

問18 今後、芸術文化活動・スポーツ活動の振興のため、優先して取り組むべきと思うものは何ですか。

それぞれ、1～7の中であてはまるもの3つに○をつけてください。

	芸術文化活動	スポーツ活動
ア コンサート・催し物・大会・競技会等の見る機会の充実	1	1
イ 活動成果を発表する場の提供など、参加機会の充実	2	2
ウ 講座・勉強会・スポーツ指導などの学びの機会の充実	3	3
エ 被災した施設の復旧を含めた活動の場の充実	4	4
オ 各種の活動に対する相談・支援の仕組みづくり	5	5
カ 団体相互の交流などの場づくり	6	6
キ その他	7	7

キの場合、具体的に（ ）

VI 震災後の県内の安全・安心（治安）について

震災後は治安情勢が変化しており、早急に治安対策を図るため、県民の皆さまが抱いている安全・安心に関する意識や要望を調査し、犯罪抑止対策や検挙活動等の効果的な推進に役立ててまいります。

問19 震災後、現在あなたが住んでいる地域の治安が良くなったと思いますか。
あてはまるもの1つに○をつけてください。

- | | |
|-----------------|---------|
| 1 良い → (問19-1へ) | 3 変わらない |
| 2 悪い → (問19-2へ) | 4 わからない |

(問19で「1 良い」とお答えの方にお尋ねします。)

問19-1 良くなったと思う理由は何ですか。
あてはまるもの1つに○をつけてください。

- | | |
|------------------------------|---|
| 1 自分自身や家族、友人、知人が犯罪の被害に遭っていない | |
| 2 犯罪の発生を口コミやニュース等で聞かなくなった | |
| 3 犯罪の検挙をニュース等で聞かなくなった | |
| 4 その他（具体的に： _____） |) |

(問19で「2 悪い」とお答えの方にお尋ねします。)

問19-2 悪くなったと思う理由は何ですか。
あてはまるもの1つに○をつけてください。

- | | |
|-----------------------------|---|
| 1 自分自身や家族、友人、知人が犯罪の被害に遭っている | |
| 2 犯罪の発生を口コミやニュース等で聞くようになった | |
| 3 犯人の検挙をニュース等で聞かなくなった | |
| 4 その他（具体的に： _____） |) |

問20 犯罪の発生状況や犯罪を未然に防止する方法等の情報について、どのような形で提供されるのがよいと思いますか。
あてはまるもの3つに○をつけてください

- | | |
|---------------------|---|
| 1 各種防犯研修会の開催 | |
| 2 警察官の訪問による具体的な助言活動 | |
| 3 防犯広報紙の配布 | |
| 4 県警察ホームページへの掲載 | |
| 5 テレビ放映による広報 | |
| 6 ラジオ放送による広報 | |
| 7 新聞の定期的な掲載 | |
| 8 携帯電話へのメール配信 | |
| 9 その他（具体的に： _____） |) |
| 10 わからない | |

問 2 1 犯罪に関するどのような情報が知りたいですか。
あてはまるもの 3つに○をつけてください。

- 1 自分の住んでいる地域の犯罪情報
- 2 市町村単位の犯罪情報
- 3 福島県全体の犯罪情報
- 4 全国の犯罪傾向
- 5 学校や幼稚園周辺の犯罪情報
- 6 少年非行の現状
- 7 多発している犯罪の手口や傾向
- 8 振り込め詐欺や悪質商法に関する情報
- 9 来日外国人の犯罪情報
- 10 インターネットに関する犯罪情報
- 11 防犯設備、防犯グッズ等の防犯情報
- 12 その他（具体的に： _____)

問 2 2 現在お住まいの地域で最も不安に感じる犯罪は何ですか。
あてはまるもの いくつでも○をつけてください。

- 1 殺人、強盗などの凶悪犯罪
- 2 空き巣や車上ねらい、自転車盗などの街頭犯罪
- 3 子どもに対する声かけやいたずら
- 4 痴漢や強制わいせつなどの性的犯罪
- 5 振り込め詐欺や悪質商法など
- 6 少年犯罪
- 7 児童虐待
- 8 児童買春・児童ポルノ等の少年の福祉を害する犯罪
- 9 ストーカー犯罪
- 10 DV（ドメスティック・バイオレンス＝配偶者間暴力）
- 11 違法な貸付などのヤミ金融事犯
（「ヤミ金融事犯」については、〈参考 2〉をご覧ください）
- 12 インターネットを利用したサイバー犯罪
- 13 飲酒運転、ひき逃げなどの悪質・危険な交通法令違反
- 14 暴走族による共同危険行為や騒音運転などの暴走行為
- 15 暴力団等による組織犯罪
- 16 麻薬、覚せい剤の売買、乱用などの薬物犯罪
- 17 不法投棄などの環境犯罪
- 18 銃器の使用・所持・密輸・密売などの銃器犯罪
- 19 その他（具体的に： _____)
- 20 特になし

〈参考 2〉「ヤミ金融事犯」とは

ヤミ金融事犯とは、貸金業において、法律に規定された金額よりも高い利息を請求することや登録を受けずに金を貸す営業をしたり、違法な取立行為をすることなどを言います。

問23 震災後の安全で安心な地域社会をつくるため、警察にどのような活動を強化して欲しいと考えますか。

あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

1	犯罪の検挙	
2	犯罪の抑止活動	
3	パトロール等街頭活動	
4	緊急事案に対する迅速な対応	
5	交通事故の抑止活動	
6	犯罪・事故被害者に対する支援	
7	事件・事故に関する情報発信	
8	警察安全相談の充実	
9	意見・要望への対応	
10	防犯・交通ボランティア等の結成、活動への支援	
11	その他（具体的に：_____）	
12	特になし	

VII 安全で安心な県づくりについて

福島県では、「福島県安全で安心な県づくりの推進に関する条例」に基づき、真に安心できる暮らしの実現に向けて各種施策を行うこととしています。県民の皆さまは「安心」をどのように実感しているのかについてお伺いし、今後の安全安心に関わる各種施策に役立ててまいります。

問24 次にあげた（ア）～（エ）の項目について、あなたは現状をどのように感じていますか。それぞれ1～5の中であてはまるもの1つに○をつけてください。

	はい	どちらかと言え ば「はい」	どちらとも言え ない ・該当しない	どちらかと言え ば「いいえ」	いいえ
ア あなたは、大規模災害に備えて、避難場所の確認や食糧の備蓄などを行っていますか。	1	2	3	4	5
イ あなたの住む地域は、水害、地震、火災などの災害に対して備えが充実した安心できる地域であると思いますか	1	2	3	4	5
ウ あなたは、犯罪にあうことへの不安を感じることなく安心して暮らしていますか。	1	2	3	4	5
エ あなたは、自分の周囲には児童、配偶者、高齢者、障がい者などに対する暴力がなく、安心して暮らせる環境だと思いますか。	1	2	3	4	5

	はい	どちらかと言えば「はい」	どちらとも言えない・該当しない	どちらかと言えば「いいえ」	いいえ
オ あなたは、交通事故にあうことや起こすことへの不安を感じることなく安心して暮らしていますか。	1	2	3	4	5
カ あなたは、毎日の食生活において、食品の安全に不安を感じることなく安心して暮らしていますか。	1	2	3	4	5
キ あなたの住む地域は、水や大気など環境汚染に関して安全な生活環境が確保されていると思いますか。	1	2	3	4	5
ク あなたは、食品や日用品など、消費生活に関して不安を感じることなく、安心して暮らしていますか。	1	2	3	4	5
ケ あなたは、犯罪や交通事故の犠牲者やその家族が受けた被害から立ち直り、平穏な生活を取り戻すための支援活動（（社）ふくしま被害者支援センターなどによる相談等の各種支援）があることを知っていましたか。	1	2	3	4	5
コ あなたは、身の回りのいろいろな危険（災害や事故、犯罪など）から身を守るために気をつけていることがありますか。	1	2	3	4	5
サ あなたの住む地域では、身の回りのいろいろな危険（災害や事故、犯罪など）から住民や地域を守るため、住民の方々や地域の団体が協力し合いながら対策を行っていると思いますか。	1	2	3	4	5
シ あなたは、日頃、地域住民やNPO等による地域づくり活動に自主的・積極的に参加していますか(支援を含む)。	1	2	3	4	5

◆ このページの質問は、アンケートにお答えいただいた内容を統計的に分析するために
お尋ねするものです。最後までご協力をお願いします。

あなたご自身についてお答えください。

F 1 あなたの性別をお知らせください。

1 男	2 女
-----	-----

F 2 あなたの満年齢をお知らせください。（平成23年11月1日現在）

1 15～19歳	5 35～39歳	9 55～59歳
2 20～24歳	6 40～44歳	10 60～64歳
3 25～29歳	7 45～49歳	11 65～69歳
4 30～34歳	8 50～54歳	12 70歳以上

F 3 あなたの現在のご職業は何ですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。
(複数の職業をお持ちの方は、主とするもの1つに○をつけてください)

- | |
|---------------------------------------|
| 1 農・林・漁業（農業・林業・漁業の自営者、家族従事者） |
| 2 商・工・サービス業（小売店・飲食店・理髪店などの自営者、家族従業者） |
| 3 自由業（開業医・弁護士・芸術家・茶華道の師匠などの自営者、家族従事者） |
| 4 管理職（民間会社・官公庁の課長級以上） |
| 5 事務職・専門技術職（事務職員・教員・技術者など） |
| 6 技能職・労務職（技能工・販売店員・外交員など） |
| 7 パートタイマー・アルバイト・フリーター・嘱託など |
| 8 専業主婦・主夫 |
| 9 学生・生徒 |
| 10 その他（具体的に： _____) |
| 11 無職 |

F 4 あなたがお住まいの市町村名をご記入ください。

(市 ・ 町 ・ 村)

お忙しいところ、ご協力いただきありがとうございますございました。

ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒をお使いのうえ、
12月5日（月）までに、切手を貼らずに郵便ポストに
投函してください。

IV 過去に実施した 県政世論調査項目一覧

平成22年度（8項目30問） 標本数1,300 回収率60.8%

- (1) 福島県農林水産物の消費拡大について
- (2) 地域社会の安全・安心について
- (3) 生活習慣病予防対策について
- (4) 水について
- (5) 生物多様性について
- (6) 廃棄物対策について
- (7) 福島県総合計画について
- (8) 安全で安心な県づくりについて

平成21年度（7項目30問） 標本数1,300 回収率65.1%

- (1) 福島県の農業・農村の振興について
- (2) 地域社会の安全・安心について
- (3) 食育について
- (4) 環境について
- (5) 青少年の健全育成について
- (6) 土地利用について
- (7) 福島県の新しい総合計画について

平成20年度（5項目28問） 標本数1,300 回収率64.2%

- (1) 安心・安全な県産農産物の生産拡大について
- (2) 地域社会の安全、安心について
- (3) 保健福祉関連事業について
- (4) 福島県新長期総合計画「うつくしま21」について
- (5) ユニバーサルデザインについて

平成19年度（5項目23問） 標本数1,300 回収率61.8%

- (1) 「ふくしま食と農の絆づくり運動」について
- (2) 警察活動について
- (3) 「がん」に関する意識について
- (4) 県庁の組織名及び職名について
- (5) 福島県新長期総合計画「うつくしま21」について

平成18年度（6項目21問） 標本数1,300 回収率58.5%

- (1) 犯罪に関する意識について
- (2) 化学物質について
- (3) 有機農産物に対する認知度と消費動向について
- (4) 食育について
- (5) “うつくしま、ふくしま。” 県民運動について
- (6) 福島県新長期総合計画「うつくしま21」について

平成17年度（6項目24問） 標本数1,300 回収率59.3%

- (1) 森林と県民生活について
- (2) 水について
- (3) 電子社会の推進と現状について
- (4) 運動・スポーツに関する実態について
- (5) ユニバーサルデザインについて
- (6) 福島県新長期総合計画「うつくしま21」について

平成16年度（5項目27問） 標本数1,300 回収率61.8%

- (1) 安全に安心して暮らせる地域社会について
- (2) 地球温暖化防止のためのエコライフについて
- (3) 心の健康について
- (4) 文化に関する意識について
- (5) “うつくしま、ふくしま。” 県民運動について

平成15年度（5項目34問） 標本数1,300 回収率62.2%

- (1) お米の消費実態と福島米への要望について
- (2) 交通安全教育について
- (3) 環境保全への取り組みについて
- (4) エネルギー政策について
- (5) 県政への要望について

平成14年度（4項目30問） 標本数1,000 回収率60.5%

- (1) 地産地消について
- (2) IT革命の現状と課題について
- (3) ボランティア活動について
- (4) 食品の安全確保について

平成13年度（6項目33問） 標本数1,000 回収率58.0%

- (1) ユニバーサル・デザインについて
- (2) “うつくしま、ふくしま。” 県民運動について
- (3) 環境保全について
- (4) 県民生活と森林づくり運動について
- (5) 新エネルギーについて
- (6) 人権問題について

平成12年度（4項目31問） 標本数1,000 回収率62.2%

- (1) 行政情報化について
- (2) 魅力ある観光地づくりについて
- (3) うつくしま未来博について
- (4) 運動・スポーツについて

平成11年度（6項目34問） 標本数1,000 回収率64.4%

- (1) 福島県の教育について
- (2) 高齢社会について
- (3) 住民参加について
- (4) 行財政改革について
- (5) 土地利用について
- (6) 県への要望について

平成10年度（6項目33問） 標本数1,000 回収率66.9%

- (1) 子育てについて
- (2) 生涯学習について
- (3) 安全な生活について
- (4) 魅力ある観光地づくりについて
- (5) 地方分権について
- (6) 県への要望について

平成23年度
県政世論調査
結果報告書
〈概要版〉

平成24年3月発行

福島県 知事直轄 県民広聴室
〒960-8670 福島市杉妻町 2 番 16 号
電話 (024) 521-7013